

第一項中教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スル場合ノ休職及前項ニヨル休職ノ期限

ハ其事故止ミタル後尙三ヶ月トシ其他ノ場合ノ休職期間ハ一年トス（明治四十一年四月十七日勅令第九十五號ヲ以テ改正）

第二條 休職ノ期限滿ツルトキハ當然退職者トス

第三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ

附 則

第四條 本令ハ市町村立小學校教員ニ適用セス

第五條 明治二十七年六月五日以後本令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス

○府縣立町村立學校長教員及書記ニ官吏服務規律適用方

明治十六年五月二十六日
文部省 號外 達

府 縣

官吏懲戒例並ニ行政官吏服務規律等ノ儀ハ府縣立町村立學校長教員及府縣立學校書記ヘモ適用スヘキ事勿論ニ候條此旨相達候事

明治三十二年勅令第六十三號ヲ以テ官吏懲戒例廢止

○公立學校職員ニ文官懲戒令準用方

明治三十二年七月十九日
勅令第三百四十九號

小學校ニ非サル公立學校ノ職員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十二年七月二十日ヨリ施行ス

○學校職員督勵上注意方

明治三十五年七月九日
文部省訓令第五號

近來學校ニ於テ往々紛擾ヲ見ルハ教育上憂慮スヘキ所ナリ地方長官ハ此際一層學校職員ヲ督勵シ苟モ職員ニシテ生徒ヲ使噉煽動スルカ如キ行為アル者ニ對シテハ其機ヲ失セス相當措置スヘク又生徒ニシテ其ノ本分ヲ忘レ職員ニ對シテ反抗ヲ試ミ或ハ同盟休校ヲ爲スカ如キ者アラハ嚴重處分セシメ以テ校紀ノ振作ヲ務ムヘシ

○公立學校職員俸給支給細則

明治三十六年六月二十四日
愛媛縣令第二十五號

明治三十六年勅令第六十六號公立學校職員俸給令第十八條ニ基キ公立學校職員俸給支給細則左ノ通り之ヲ定ム

公立學校職員俸給支給細則

第二編

職員

（公立學校職員ニ文官懲戒令準用方）
（學校職員督勵上注意方）
（公立學校職員俸給支給細則）

第一條 俸給ハ毎月廿三日之ヲ支給ス但休日ニ當ルトキハ順延トス

第二條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ支給定日ニ拘ハラズ其際之ヲ支給ス

一、休職廢職退職又ハ死亡ノトキ

二、他へ轉任ノトキ

三、支給定日後、新任、復職、増俸若ハ他ヨリ轉任ノトキ

第三條 他へ轉任者ノ俸給ハ發令ノ當日迄他ヨリ轉任者又ハ復職者ノ俸給ハ發令ノ翌日以後ノ分ヲ日割ヲ以テ支給ス

第四條 減俸又ハ他へ轉任等ニヨリ俸給ニ過渡ヲ生シタルトキハ其際之ヲ追徴スヘシ

第五條 休職、廢職、退職ノ者ニシテ事務引繼殘務調理翌月以後ニ涉リ至月分ヲ支給スル者ノ俸給ハ第一條ノ定日ニ依リ之ヲ支給ス但最後ノ月ハ結了ノ日迄ノ分ヲ日割ヲ以テ其際之ヲ支給ス

第六條 病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ減給セラレタル者休職、廢職、退職、又ハ死亡ノトキハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第七條 公務ニ因ル傷疾若ハ疾病又ハ忌引賜暇休養ノ場合ハ病氣若ハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ欠勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第八條 陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員其俸給額本職俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ本職俸給ヨリ之ヲ補給ス

戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタル場合ニハ俸給ノ一部其他休職者ニシテ特別ノ事情アルトキハ俸給ノ三分ノ一以下ヲ給スルコトアルヘシ（明治三十七年愛媛縣令第三十三號ヲ以テ改正）

第九條 俸給日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

○公立學校（小學校ヲ除ク）職員旅費及諸給與規則

明治四十一年三月廿九日 縣令第三十一號ヲ以テ改正

公立學校（小學校ヲ除ク）職員旅費及諸給與規則

公立學校（小學校ヲ除ク）職員旅費及諸給與規則

第一章 旅 費

第一條 旅費ハ別表ニ依リテ之ヲ支給ス但時宜ニ依リ特ニ金額ヲ定メテ之ヲ支給スル事アルヘシ

第二條 旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ヲ準用ス

流車賃船賃	車馬賃	一里	二付	宿泊料	一泊	二付	日常	一日	二付	食卓料	一日	三付
一里	二付	管内	管外	郡内	管内	管外	郡内	管内	管外	一日	三付	一日
五錢	五錢	拾六錢	貳拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓
五錢	五錢	拾六錢	貳拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓	拾錢	壹圓
四錢	四錢	拾貳錢	拾五錢	六拾錢	壹圓	貳拾五錢	四拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢
四錢	四錢	拾貳錢	拾五錢	六拾錢	壹圓	貳拾五錢	四拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢

其	他	參	錢	參	錢	八	錢	拾	錢	四	拾	錢	六	拾	錢	廿	五	錢	參	拾	錢	參	拾	錢
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第二章 諸給與

第三條 職員其職務ニ勉勵シタルトキハ俸給一ヶ月分以内ノ金額ヲ賞與スルコトアルヘシ

第四條 舍監ニシテ監督上必要ノ爲メ寄宿生徒ト同食シタルトキハ當日生徒ノ食料ト等シキ賄料ヲ月末ニ於テ支給ス

○公立學校（小學校ヲ除ク）雇職員俸給ニ關スル規則

明治三十六年七月二十三日
愛媛縣訓令第二十三號

郡 市 町 村
學校組合 縣立學校

公立學校（小學校ヲ除ク）雇職員俸給ニ關スル規則左ノ通之ヲ定ム

公立學校（小學校ヲ除ク）雇職員俸給ニ關スル規則

第一條 本規則ニ於テ雇職員ト稱スルハ教諭、助教諭、舍監、書記ノ各心得其他囑託教員、雇職員雇書記等ヲ謂フ

第二條 俸給ハ月俸又ハ日給ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條 月俸ハ新任、増俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

日給ハ新任、増俸ハ發令ノ當日ヨリ減俸ハ其翌日ヨリ計算ス

第四條 月俸ノ者廢職、退職又ハ死亡ノトキハ當月分ノ俸給全額ヲ支給ス但自己ノ便宜ニ依リ退職シタルモノハ日割ヲ以テ發令ノ當日迄ノ俸給ヲ支給ス

日給ノ者前項ノ場合ハ其當日迄ノ俸給ヲ支給ス

第五條 廢職、退職ノ者事務引繼、殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ俸給ヲ支給ス

第六條 月俸ノ者病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第七條 日給ノ者病氣及私事ノ故障ニ依リ執務セサルトキハ俸給ヲ支給セス但一般ノ休日（引籠中ノ休日ハ除ク）及公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ此限ニアラス

第八條 陸海軍召集條例ニ依リ召集ニ應スル者ハ任地出發ノ當日ヨリ歸着ノ當日迄俸給ヲ支給セス

第九條 公立學校職員俸給支給細則第一條乃至第七條及第九條ハ之ヲ適用ス但第一條ノ俸給支給定日ヲ日給ハ毎月末日トシ若シ休日ニ當ルトキハ其前日トス

○縣立學校職員戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ俸給不足額支給方

明治三十七年五月二十日
愛媛縣訓令第二十五號

縣立學校職員戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタルトキ陸軍又ハ海軍ニ於テ

第二編 職員（縣立學校職員戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ俸給不足額支給方）

受クル俸給又ハ給料ノ額休職當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足全額ヲ支給スヘシ但此場合ニ於テハ本人ヨリ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ニ關シ所屬隊主計ノ証明書ヲ差出サシムヘシ

○縣立學校職員戰時事變ニ關スル休職者俸給支給ニ關スル件

明治三十八年九月二十八日
愛媛縣訓令第四十號
縣立學校

縣立學校職員ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲休職トナリタル者其ノ事故止ミタル後休職繼續期間中ハ休職當時ノ俸給ノ二分ノ一ヲ支給スヘシ

○郡立學校職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ヲナ

ス場合ノ手續

明治三十四年五月九日
愛媛縣訓令第十七號

郡立學校

郡立學校職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ノ場合ハ豫メ郡長ノ許可ヲ經ヘク其ノ休

暇中ノ旅行又ハ病氣事故ノ爲メ缺勤ヲ爲シ若ハ忌引ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ郡長へ届出ツヘシ職員ノ公務出張ニシテ其ノ管外ニ係ルモノハ郡長直チニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

○市町村並ニ町村學校組合立學校(小學校ヲ除ク)職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ノ場合ニ於ケル手續

明治三十五年十二月五日
愛媛縣訓令第三十三號

郡市町村及町村學校組合

市町村並ニ町村學校組合立學校(小學校ヲ除ク)

市町村並ニ町村學校組合立學校職員(小學校ヲ除ク)ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若クハ私事旅行ノ場合ハ豫メ監督官廳ノ許可ヲ經ヘク其ノ休暇中ノ旅行又ハ病氣ノ爲メ欠勤ヲ爲シ若クハ忌引ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ監督官廳ニ届出スヘシ前項ノ出張ニシテ其管外ニ係ルモノハ郡長直チニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

◎教員檢定

○教員免許令

明治三十三年三月三十日
勅令第三百三十四號

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二編 職員 (市町村並ニ町村學校組合立學校(小學校ヲ除ク)職員ニシテ公務ノ爲メ出張ヲ爲シ若ハ私事旅行ノ場合ニ於ケル手續)
教員檢定 (教員免許令) 四八五

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者
三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其

ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月二日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

文部省令第七號

明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第三條ニ依リ又ハ同令施行前ニ授與シタル師範學校中學校女子師範學校師範學校女子部又ハ高等女學校ノ教員免許狀ニ記載ノ學科目ニツキテハ其ノ免許狀ノ效力ハ交互他ノ學校ニ及ブ但シ女子師範學校師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ノ效力ハ師範學校中學校ニ及ハス

○教員檢定ニ關スル規程

明治三十三年六月一日 文部省令第十號

第一條 教員檢定ハ受檢人ノ學力、品行、身體ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノ

トス

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ但シ法制及經濟ノ試驗檢定ハ修身若ハ教育ノ免許狀ヲ有スル者ノ外修身若ハ教育ヲ併セテ出願スルニアラサレハ之ヲ行ハス此場合ニ於テハ其ノ手數料ニ關シテハ之ヲ一學科目ト看做ス（明治三十六年文部省令）

- 修身 教育 國語及漢文 英語
- 佛語 獨語 歷史 地理
- 數學 物理及化學 博物 法制及經濟
- 習字 圖畫 家事 裁縫 體操
- 音樂 簿記 農業 商業
- 手工 手藝

歷史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何三角法、解析幾何、微分積分ノ三部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、礦物ノ三部ニ分テ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス（明治四十年文部省令）

解析幾何ハ算術代數幾何三角法ニ微分積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス（明治三十四年文部省令第十二號）

第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ
試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲スル學校ノ種類、

學科目ヲ記シタル願書（書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定

ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書（書式）及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二 學校醫ノ身體檢査書（書式）但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七

號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢査書ヲ以テスルモ妨ケナシ

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試驗檢定ヲ受

クルコトヲ得（四十二年三月文部省令）

一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者

二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大

臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限

五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校

若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準

スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得（明治四十年文部省令）

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 二 修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者
- 四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
- 五 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 六 明治四十二年二月以前ニ於テ教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者
- 第六條ノ二 前條ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其學科目ニ限リ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得
 - 一 英語科、佛語科、獨語科ニ在リテハ外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者（同上）
 - 二 數學科、博物及化學科、博物科ニ在リテハ文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者
 - 三 裁縫科ニ在リテハ高等女學校ニ於ケル修業年限三箇年以上ノ技藝專修科ヲ卒業シタル者
 - 四 農業科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種農業學校ヲ卒業シタル者
 - 五 商業科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種商業學校ヲ卒業シタル者
 - 六 手工科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル工業學校ヲ卒業シタル者

四十一
年文
部省
令第
六號
ヲ以
テ改
正

- 第七條 試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ
豫備試驗ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二條但シ書ノ修身若クハ教育ノ免許狀ヲ有セサルモノニ對スル法制經濟ノ本試驗ハ修身若クハ教育ノ本試驗ニ合格スルニ非サレハ行ハス
- 第八條 試驗ハ受験人出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員タラムト欲スル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシ教育ノ大意及教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス（明治四十年文部省令第十三號ヲ以テ改正）
- 第九條 豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ
本試驗ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス
- 第十條 左ニ掲クル者ニシテ體操科ノ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ兵式體操ノ部分ヲ省ク
 - 一 陸軍歩兵科士官
 - 二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者（同上本條改正）
- 第十一條 國語及漢文科、數學科、圖畫科ノ試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ國語及漢文科ニ在リテハ國語、漢文ノ一、數學科ニ在リテハ算術代數幾何、圖畫科ニ在リテハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ一ニ關シ成績佳良ナルトキハ教員檢定委員會會長ハ其部分ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スヘシ（明治四十年文部省令第十三號ヲ以テ改正）
- 前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同一學科目ニ就キ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ其證明書

ニ記載シタル部分ノ試験ヲ省ク（同上）

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

附 則

第十三條（同上）

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五條第一項第二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 従前ノ規定ニ依リ認めラレタル豫備試験ノ合格竝ニ證明書ノ效力ハ仍其ノ有効期間存續ス（同上）

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第六條ノ規定ニ拘ラス試験檢定ヲ受クルコトヲ得但シ第一號ニ該當スル者ニ關シテハ本令施行後三箇年間ニ限ル（明治四十年文部省令第十三號ヲ以テ追加）

- 一 本令公布ノ際現ニ師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ教員ノ職ニ在ル者
- 二 前號ニ該當スル者ニシテ試験檢定ヲ受ケ教員免許狀ヲ授與セラレタル者

（備考）

明治四十年文部省令第十三號ヲ以テ改正ノ條項同四十二年三月一日ヨリ施行

第一號書式（用紙美濃紙）

教員檢定願（明治四十一年文部省令第六號ヲ以テ改正）

住所族籍 氏 名

生 年 月

消 印
收 入
印 紙

何學科 何學科

何學科

私儀第一種學校教員（師範學校、中學校又ハ女子師範學校）
第二種學校教員（女子師範學校、師範學校女子師範學校女子部高等女學校ノ教員タルモノ）
第二種學校教員（女子師範學校、師範學校女子部高等女學校ノ教員タルモノ）
志願ニ候間前記ノ學科ニ就キ試験檢定（無試験檢定）相受度別紙履歷書竝ニ醫師身體檢査書相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右

何 某 印

文部大臣何某殿

第二號書式（用紙美濃紙）

履 歷 書

氏 名

生 年 月

學 業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業 證書寫別紙ノ通

一年月日何々ニヨリ何免許狀ヲ受ク 免許狀寫別紙ノ通

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞 罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付キ何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク
右之通相違無之候也

右

何

某印

第三號書式

（用紙美濃紙記載方ハ別記身體檢査書記載方心得ニ依ルヘシ）

身體檢査書

族 籍

何

某

生 年 月

一 體 格

一 身 長

一 體 重

一 胸 圍

一 中 心 視 力

色 盲

眼 病

一 聽 力

耳 疾

一 呼 吸 器

一 神 經 系

一 皮 膚

一 言 語

一 既 往 現 在 ノ 疾 病 又 ハ 畸 形

右 檢 査 候 處 相 違 無 之 候 也

年 月 日 檢 査

住 所

何 學 校 醫

學 位 若 何

某 印

別 記

身 體 檢 査 書 記 載 方 心 得

一 檢 査 ノ 表 記 及 身 長 體 重 胸 圍 聽 力 等 ノ 檢 査 方 法 ハ 明 治 三 十 三 年 文 部 省 令 第 四 號 學 生 生 徒 身 體 檢

查規程ニ準スヘシ

一體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一 中心視力ハステルン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ20ノト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

一 色盲ハ其ノ有無、若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ

一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一 皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一 言語ハ明朗、吃、嘔聲等ヲ記載スヘシ

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

○教員無試験檢定ニ關スル指定學校卒業生

明治三十三年六月一日 文部省告示第百五十三號

明治三十三年文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程第五號第一項第一號ニ依リ指定スルノ左ノ如シ

帝國大學分科大學卒業生

元東京大學卒業生

元工部大學卒業生

帝國大學分科大學選科修了生

帝國大學文科大學元古典講習科卒業生

帝國大學理科大學簡易講習科卒業生

帝國大學農科大學實科卒業生

帝國大學農科大學乙科優等卒業生

高等學校卒業生

元高等中學校卒業生

札幌農學校卒業生

元東京農林學校卒業生

農業教員養成所卒業生

高等商業學校卒業生

元東京商業學校卒業生

商業教員養成所卒業生

東京工業學校卒業生

元東京職工學校卒業生

工業教員養成所卒業生

東京美術學校卒業生

東京音樂學校卒業生

元高等師範學校附屬音樂學校卒業生

元東京音樂學校卒業生

東京外國語學校卒業生

學習院高等學科、大學科卒業生

私立日本體育會體操學校高等本科卒業生(明治三十四年文部省告示第百九號ヲ以テ追加)

○中學校倫理科教員免許狀ノ效力

明治三十四年三月三十日 文部省告示第七十一號

中學校倫理科教員免許狀ハ明治三十四年四月一日以後中學校修身科教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

○公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規定

明治三十二年四月五日 文部省令第二十五號

第一條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ第條二第一項ノ許可ヲ受ケタル公立私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲クル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲナス
但修業年限三箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ四學年以上トシ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス (明治三十二年四月十二號ヲ以テ但書追加)

第二條 公立私立學校ニシテ其卒業生ニ關シ第一條ノ取扱ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受ケ
一 試験ヲ須ヒスシテ教員免許狀ヲ受クヘキ見込ノ學科目

二 學 則

三 校地、校舍、寄宿舎圖面

四 教科書及參考書目錄

五 教授器械及標本目錄

六 教員履歷書、受持學科及專任兼任ノ區別ヲ記シタル調書

七 一箇年ノ經費收入支出金額及其細目

前項ノ學校ハ左ノ要件ヲ具備スルモノタルヘシ

一 前項第一號ノ學科目ハ高等師範學校女子高等師範學校ノ當該學科目ト同等以上ノ程度ニシテ別ニ相當ノ補助科目ヲ具フルコト (同本號) (改正)

二 學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員其他ノ設備アルコト

三 維持ノ方法確實ナルコト

四 免許ヲ受ケントスル學科ニ於テ卒業生アリタル以後二箇年以上ヲ經過シ其成績佳良ナルコト (明治三十六年文部省令) (第二十一號ヲ以テ追加)

五 教授管理適當ナルコト (同上)

第三條 第一條ノ取扱ヲ受クル學校ニ於テ卒業試験ヲ施行スルトキハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ試験ノ期日及其生徒中師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ數ヲ具シ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 文部大臣ハ師範學校中學校高校女學校教員檢定委員又ハ其他ノ吏員ヲ派遣シテ卒業試験

ニ立會ヲ爲サシム但委員又ハ吏員ハ試驗問題及答案ヲ查閱シ試驗場ニ參列ス
前項ノ委員又ハ其他ノ吏員ニ於テ試驗問題又ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ又
ハ變更セシムルコトアルヘシ

第五條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ族籍氏名生年月及許可ヲ受ケタル學科ノ點數ヲ具シ試驗後遲
滯ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 卒業試驗合格者中各學年ヲ通シテ總授業時數ノ四分ノ一以上授業ヲ授ケサル者ハ卒業試
驗ニ於テ合格スルモ第一條ノ取扱ヲ爲スノ限ニアラス

第七條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ學則ヲ變更シ又ハ校地校舍寄宿舎ヲ變更セン
トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第八條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一項第四號前段又ハ第六號ノ事項ニ
異動ヲ生シタルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第九條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ師範學校中學校高等女學校卒業生ノ入學ヲ許
可セントスルトキハ願書ニ左ノ書類ヲ添付セシムルコトヲ要ス

一 履歷書
二 卒業試驗點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書

師範學校卒業生ニアリテハ前項各號ノ外服務義務終了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ添付セシム
ルコトヲ要ス

第十條 第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備ヘ永久ニ保存スヘシ

一 其學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復書類

二 學則

三 日課表、各教員受持學科及時間表、教科書配當表

四 職員名簿及履歷書

五 生徒學籍簿

六 學年試驗問題、答案及成績表

七 職員出勤簿、生徒毎時出席簿

八 資産原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

九 圖書、器械、器具、藥品、標本目錄

十 生徒諸願届

生徒學籍簿ニハ生徒ノ族籍氏名住所生年月日入學及卒業ノ年月日入學前ノ學歷等ヲ記載スヘシ

第十一條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シタルトキ又ハ第二條第二項
ノ要件ノ一ヲ失ヒタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向ヒテ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校ニ於テ修學シ學位ヲ受
領シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第
一項第一號ニ掲ケル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 本令中師範學校ノ卒業證書トアルハ師範學校簡易科ノ卒業證書ヲ包含セス(同上本
條追加)

○公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規定第一條
 ノ取扱ヲ受クル學校 明治三十一年八月三十一日現在

道廳府縣	設立別	學 校 名	免 許 狀 種 類	許 可 年 限
東 京	私立	東京專門學校文學部	修身 倫理 地理 教育 國語 漢文	明治三十一年七月
	私立	哲學館教育部	修身 倫理 漢文	同 年 十 月
	私立	國語 歷史	國語 歷史	同 年 七 月 二十七日

○教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得ル規定

明治三十三年九月六日
 文部省令第十五號

明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第二條但書ニ依リ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得ルノ件左ノ通相定ム

第一條 師範學校中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ教員免許狀又ハ第二條ノ資格ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

第二條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員免許狀ヲ有ス

ル者ヲ採用スルコトヲ得

第三條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭助教諭又ハ訓導ト稱スルコトヲ得

第四條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セントスル者ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數之ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ハ文部大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス(明治四十一年文部省令第一號ヲ以テ改正)

附 則

本令ハ四十一年四月一日ヨリ施行ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ氏名、履歷及分擔學科並當該學校現在教員ノ氏名及資格ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定アル學校ヲ除ク外公立學校ニ於テハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施行ス

第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セスシテ第一條ノ學校ノ教授ニ従事スル者ハ本令ノ規定ニ依リ採用セラレタル者ト看做ス

第八條 明治三十年文部省令第十九號第七條明治三十二年文部省令第二十二號同第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（備考）
明治三十八年文部省令第一號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

◎恩給

○府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治三十三年十月二日
法律第九十一號

第一條 府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舎監及書記ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス（明治三十二年法律第百九十九號ヲ以テ改正）

第三條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢職廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第五條 官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條第十一條及第十二條第二項ハ退隱料ニ適用ス

退隱料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニヨリ之ヲ定ム
勤績滿十五年以上ニシテ退職シタルモノ、退隱料年額ハ勤績滿十五年ニ對シテハ俸給年額ノ百分ノ二十五トシ次ニ滿十五年以上ノ勤績年數中十五年ヲ控除シタルモノニ對シ一年毎ニ百分ノ一ヲ加ヘ次ニ其他ノ在職年數ニ對シ一年毎ニ百五十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至リテ止ム

前項ノ場合ヲ除クノ外在職滿十五年以上ニシテ退職シタルモノ、退隱料年額ハ在職滿十五年ニ對シテハ俸給年額ノ百分ノ二十五トシ爾後在職一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至リテ止ム

前二項ノ場合ニ於テ在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退隱料四十年ノ額トシ又前條ニヨリ給スヘキ退隱料ハ前項ニ依リ差出シタル十五年ノ額トス

官吏恩給法第五條第四項第五項第六條第十條第十一條及第十三條第二項ハ退隱料ニ之ヲ準用ス

第六條（明治三十二年法律第百九十號ヲ以テ削除）
第七條 退隱料ヲ受クルモノ重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ退隱料ヲ剝奪ス

退隱料ヲ受クルモノ左ノ事項ノ一ニ當ル時ハ其退隱料ノ支給ヲ停止ス但シ第一號ノ場合ニ於テ

ハ其差額ニ限り支給ヲ停止ス

一、公務ニ就キ受ケル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スル時

二、公權ヲ享止セラレタルトキ

第八條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退職料ヲ受ケルノ資格ヲ失フモノトス

第九條 府縣立師範學校及公立中學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限り退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退職料ヲ終身給與ス

第十條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舎監及書記ニハ退職現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但非職又ハ休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ本職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給與ス

第三條第四條又ハ第九條ニ依リ退職料ヲ受ケル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ前項ノ限ニ在ラス

公立學校職員ニシテ教育事務ニ従事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタルモノ退職又ハ退職シタルトキハ公立學校職員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス

第三條若クハ第四條ニ依リ退職料ヲ受ケル者、他ノ法律ニ依リ退職料若クハ恩給ヲ受ケル者、自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ懲戒處分ニ依リ免職免官ニ處セラレ若クハ刑事裁判ニ依リ失職失官ニ該當シタル者ハ前二項ノ限リニ非ス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタルモノ公立學校職員ニ再任シ爾後退職シタルキハ第一項ノ在職年數

ハ其再任ノ月ヨリ起算ス

本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ轉任者退職者ノ轉任退職ノ際勤務セシ公立學校所屬府縣郡市町村ノ負擔トス

附 則

本法ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前退職料ヲ受ケタルモノニシテ本法施行後再公立學校職員トナリ在職滿三年以上ニ至ラスシテ退職シタルモノ、退職料額算定方ハ従前ニ依ル

第十一條 退職料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退職料ニ適用ス

第十二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舎監及書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス（同上）

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退職料ヲ受ケル者死去シタルトキ

第十三條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル

兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員含監及書記ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス（上）

前項ノ扶助金ニ就キテハ官吏遺族扶助法第十七條第二項ヲ適用ス

第十五條 扶助料及扶助金ノ支給並第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申牒ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員含監及書記ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員含監及書記ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス（同上本條）

第十七條 退隱料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與並其支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス退隱料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム（明治二十五年文部省令第第一號ヲ以テ支給規則公布）

第十八條（明治三十二年法律第九十號ヲ以テ削除）

第十九條（上）
第二十條 此法律第一條ハ明治二十五年ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治二十六年ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設ク

ルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治二十四年勅令第二百四十八號ヲ以テ特例公布）
（備考）明治三十二年法律第九十號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

○公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十五年二月十日 文部省令第第一號

明治二十三年十月法律第九十一號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十七條ニ基キ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

第一章 退隱料ノ請求

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第三條第四條第五條第九條ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出ス（シ）（明治四十一年四月三十日日文）
（部省令第十六號ヲ以テ改正）

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 在職中ノ履歷書

二 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本但府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第九條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス（明治三十二年文部省令第二十七號ヲ以テ改正）

第三條 職務ニ依リ傷痍ヲ受ク若クハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書
二 醫師ノ診斷書

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ退隱料年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第五條 文部大臣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料證書ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシム但退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシム

第六條 （同上）
（削除）

第七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在學中ノ履歷書ヲ添付シ最終勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ（同上第二）（明治四十一年四月三十日日文）（項削除）（部省令第十六號ヲ以テ改正）

前項ノ場合ニ於テ郡市町村ノ設立ニ係ル學校ノ職員ニ在テハ其所屬郡市町村長ヲ經由スヘシ（同上）（改正）

府縣知事ニ於テ本條第一項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第八條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第十三條第一項第十四條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニ依リ退隱料ヲ

受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ學校所屬府縣知事ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

（明治三十五年文部省令第十一號ヲ以テ改正）

府縣知事ハ其所屬公立學校職員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ノ書類ヲ遺族ニ交付スヘシ（明治四十一年四月三十日日文）（部省令第十六號ヲ以テ改正）

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左ノ書類ヲ添付スヘシ

（同上）

一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第一第二第十四條ニ當ル者ノ請求書ニハ府縣知事ヨリ交付シタル死者ノ履歷書

二 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類

四 扶助料ヲ受クル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

五 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫

六 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診断

書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第十條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ査覈ノ上扶助料年額計算書又ハ扶助金計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

文部大臣ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシム其扶助金ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ

第十一條 (同上) (削除)

第十二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十三條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ル但癩疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十三條 退隱料支給ノ期ハ退隱ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス

退隱料又ハ扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月ニ於テ其前三箇月分ヲ本人居住地ノ府縣知事ヲ經テ支給ス但權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十四條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第十五條 退隱料ヲ受クヘキ權利消滅シ若クハ停止セララルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル (明治三十七年文部省令) (第二十號ヲ以テ改正)

二 公務ニ就キ受クル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其差額ノ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス (明治四十一年四月三十日文) (部省令第十六號ヲ以テ改正)

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セララルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス (同上) (改正)

第十六條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル (同上)

二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セララルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス (同上)

第十七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條ニ掲ケタル增加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ

- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
 第四項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
 第六項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二
 傷痕疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痕疾病等差例ニ依ル
 第十八條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者他ノ府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ從來居住地ノ府縣
 知事及轉籍若クハ寄留シタル地ノ府縣知事ニ届出ヘシ
 府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ甲乙兩廳間互ニ其者ニ係ル退隱料若クハ扶助料ノ
 支給方ノ受繼ヲ爲シ其引繼ヲ受ケタル府縣知事ハ遲滞ナク之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
 第十九條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキ
 ハ本籍市町村長（市ノ區長カ戸籍吏ノ事）ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ府縣知事ニ報告ス
 ヘシ
 第二十條 退隱料ヲ受ケル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ退隱料ヲ交付
 スヘキ府縣知事ニ届出ツヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ其職ヲ罷メタルトキ亦同シ其届書ニ
 ハ職名給料額及給料ノ支給ヲ受ケル最初ノ日罷職ノトキハ支給ヲ受ケル最終ノ日ヲ附記スヘシ
 前項ノ届書ハ就職ノ場合ニアリテハ就職ノ日ヨリ十四日以内給料額ニ増減ヲ生シタル場合ニ在
 リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出スヘシ
 本條ノ届出ヲ受ケタル府縣知事ハ遲滞ナク之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十一年四月三十日文部省令）
 第二十一條 府縣知事ニ於テ第十九條ノ報告ヲ受ケタルトキハ退隱料又ハ扶助料ノ交付ヲ止メ之
 ヲ文部大臣ニ報告スヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又
 ハ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ退隱料證書又ハ
 扶助料證書ヲ收メテ之ヲ文部大臣ニ納付スヘシ
 第四章 雜 則
 第二十二條 府縣知事ハ第五條又ハ第十條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト
 同時ニ之ヲ本籍市町村長（市ノ區長カ戸籍吏ノ事）ニ通知スヘシ
 第二十三條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ市町村長
 （市ノ區長カ戸籍吏ノ事）ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ府縣知事ニ届出ヘシ
 府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ文部大臣ニ申
 出ヘシ文部大臣ハ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシ
 ム
 前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス
 第二十四條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添
 へ居住地ノ市町村長（市ノ區長カ戸籍吏ノ事）ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ府縣知事ニ届
 出ヘシ府縣知事ハ證書ノ裏面ニ其實事ヲ記載シ署名捺印シテ本人ニ交付シ之ヲ文部大臣ニ報告

スヘシ
第二十五條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

○公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及

其在職年數算定方

明治三十二年五月十六日 勅令第百九十六號

朕明治二十五年勅令第十七號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於テ府縣立師範學校及公立中學校ノ正教員トアルハ教諭助教諭訓導トシ准教員トアルハ其ノ他ノ教員トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舍監及書記ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退隱ノ月ヲ以テ終リトス

明治十四年六月以前ヨリ在職ノ者ハ同年同月ヨリ起算ス

府縣立師範學校長非職又ハ休職中ノ年數及月數並府縣立師範學校長補在職中ノ年數及月數ハ在職年數ニ算入スヘシ公立中學校長並府縣立師範學校及公立中學校ノ正教員舍監書記休職中ノ年數及月數亦同シ

第三條 左ニ掲クル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ

- 一 自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數
- 二 恩給若ハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舍監書記ヲ兼スルトキハ其ノ兼職中ノ年數及月數
- 三 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十九條ニ依ル退隱料ヲ受クル者ハ其ノ退隱料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル前ノ在職年數及月數

(參照)

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

元第十九條 府縣立師範學校及公立中學校書記ノ退隱料等ハ府縣知事郡長市町村長ニ於テ府縣郡市町村會ノ意見ヲ聞

キ之ヲ定ムルコトヲ得

府縣立師範學校及公立中學校市町村立小學校ニアラサル公立學校職員ノ退隱料等ハ前項ノ例ニ依ル

本條ノ退隱料等及其支給ニ關スル費用ハ其府縣郡市町村ノ負擔トス

○府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納

金收入規則

明治二十年一月十一日 勅令第百五十五號

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第一項ニ依リ府縣立師範學校長ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ明治二十三年勅令第百二十五號官吏遺族扶助料法納金收

入規則ニ依リ收納スヘシ

公立中學校長並府縣立師範學校公立中學校ノ正教員令監書記ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ(明治三十二年勅令第百九十九號ヲ以テ改正)

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ每翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第二項ニ依リ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ毎年四月十日及十月十日マテニ其前六箇月分ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

(参照)

大藏省訓令第三號 (明治二十五年一月二十六日)

北海道廳 府縣

明治二十五年一月十一日勅令第百五號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ノ收入ハ大藏省主管トシテ左ノ通取扱フヘシ

明治二十二年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入收納順序ニ據リ整理スヘシ

但第三條ノ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ分ハ納入告知書ヲ發シ金庫ニ拂込マシムヘシ

○公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ノ計算書書式

明治二十五年二月十二日 文部省訓令第一號

北海道廳 府縣

明治二十五年ノ文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ調製スヘキ計算書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

退隱料年額計算書書式甲號 (初メテ退隱料ヲ請求シタル者ニ用フ)

退隱料年額計算書

元何學校長(教諭)(助教諭)(何々)

位 勳爵 氏

名

何年何月生 明治何年何月

何年何箇月

明治何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官	(職)	

計何年何箇月

同 何年 何 月 何 日 何々ニ依リ退職

通計何年退職現時俸給年額金何圓ノ二百四十分ノ若干

退隱料年額金何圓

支給規則第十七條第何項ニ依リ退隱料最下金額金何圓ノ若干

增加退隱料年額金何圓

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

（退隱料年額又ハ退隱料年額ト増加退隱料年額ト合セタル金額ノ四分ノ一）
每期給額 金何圓何拾何錢
明治何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢（初期給額）

取調主任 官 氏 名 印

扶助料年額計算書ニ添付スルトキハ年數計算ノ未行何々ニ依リ退職及通計何年ノ下「退隱」ヲ「死去」ト記シ増加退隱料及每期給額等ハ記載スルニ及ハス

勤務年數ニ拘ラズ退隱料ヲ給與スヘキ者例セハ准教員ノ退隱料年額計算書ノ類ハ此書式中在職年數計算ニ關スル事項ヲ省キ適宜割製スヘシ

退隱料年額計算書式乙號（退隱料ヲ受ケタル後再ヒ退隱料ヲ請求シタル者ニ用フ）

退隱料年額計算書

元何學校長（教諭）（助教諭）（何々）
位 勲 爵 氏 名

何年何月生 明治何年何月
何年何箇月

年月日任免ノ書

何年 何箇月

計何年 何箇月

右退隱ノ節受ケタル退隱料年額金何圓

年月日任免ノ書

何年 何箇月

計何年 何箇月

通計何年退職現時俸給年額金何圓ノ二百四十分ノ若干

退隱料年額金何圓

前ノ退隱料年額ニ比較シ金何圓増

每期給額 金何圓何拾何錢

明治何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢（初期給額）

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 官 氏 名 印

扶助料年額計算書式

元何學校長（教諭）（助教諭）（何々）

故位勲爵氏名寡婦（孤兒）（父）（母）（祖父）（祖母）
氏 名

何年何月生 明治何年何月
何年何箇月

扶助料年額計算書

退隱料年額金何圓ノ三分ノ一（二）

扶助料年額金何圓

每期給額 金何圓何拾何錢

明治何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢（初期給額）

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 官 氏 名 印

退隱料ヲ受ケヘキ資格ヲ有シテ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求シタルトキハ此計算書ノ外退隱料年額計算書式甲號者クハ乙號ノ計算書ヲ添付スヘシ

扶助料ノ轉給ヲ請求シタル者ニハ退隱料年額ノ一行ヲ記載スルニ及ハス
官吏遺族扶助法第十五號ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式ニ準シ適宜割製スヘシ

扶助金計算書式

扶助金計算書

故何學校長(教諭)(助教諭)(何々)
位勲雷氏名寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

氏名

故氏名 在職年數

年月日任免ノ書式ハ退隱料
年額計算書書式甲號ニ依ル

明治何年 何月何日 死

何年何箇月

計何年何箇月

在職最終俸給年額金何圓ノ百分ノ一金何圓何拾何錢ヲ在職年數ニ乗シタル額
金何圓何拾何錢

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

年 月 日

取調主任 官 氏 名 印

官吏遺族扶助料法第十一條ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式等ニ準シ適宜調製スヘシ

○公立學校職員退隱料等ニ於ケル法律ノ施行ニ關シ現行訓令

準用方 明治三十二年五月十八日
文部省訓令第七號

北海道廳 府縣

明治二十四年文部省訓令第三號明治二十五年文部省訓令第一號同第二號同第三號及明治三十二年
文部省訓令第六號ハ明治二十九年法律第十三號施行上之ヲ準用ス
明治二十九年文部省令第二號ハ廢止ス

(參照)

明治二十四年文部省訓令第三號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料ノ納金收入規則地方長官ニ於テ規定ノ件、同二
十五年同第一號ハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ノ計算書書式、同第二號ハ小學校教員退隱料證書及遺族扶助
料證書等書式、同第三號ハ小學校教員退隱料及扶助料ニ關スル豫算表式、同三十二年同第六號ハ小學校教員恩給國庫給與
金豫算調書書式、同二十九年同第二號ハ明治二十九年法律第十三號ノ施行ニ關シ現行訓令適用ノ件ナリ

◎認定及指定

○公立私立學校認定ニ關スル規則

明治三十二年六月二十八日
文部省令第三十四號

第一條 公立私立學校ニシテ徵兵令第十三條又ハ文官任用令第三條ニ關シ官立府縣立中學校ト同
等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ
在リテハ其學校代表者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ
文部大臣ニ開申シ若クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省畧スルコトヲ得

一名 稱(明治四十年文部省令
第三十三號ヲ以テ改正)

二位 置(同上)

三 學校ノ沿革

四 學 則

- 五 學校長、學校長ナキトキハ其學校代表者ノ履歷
 - 六 教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別（明治三十六年文部省令第三十號ヲ以テ改正）
 - 七 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
 - 八 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
 - 九 校地、校舍及寄宿舎ノ圖面
 - 十 經費及維持ノ方法
 - 十一 教科書目錄
 - 十二 教授用器具、器械及標本目錄
- 特別ノ規定アル場合ヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス（明治三十四年文部省令第五號ヲ以テ改正）
- 第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
- 一 專門學校（別科ヲ除ク）及實業專門學校（別科ヲ除ク）ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者タルコト（明治三十七年文部省令第十一號ヲ以テ改正）
 - 二 實業學校ニ在リテハ甲種實業學校若ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ具ヘ修業年限三箇年以上ノモノ

三 其他ノ學校ニ在リテハ其學科程度、入學規則、編制及設備等中學校ノ規定ニ準シ且其教員全數ノ三分ノ一以上ハ專任ニシテ中學校ノ教員免許狀ヲ有スルモノ

第三條 文部大臣又ハ地方長官ハ必要ト認メタルトキハ主務官吏ヲシテ認定ヲ受ケタル學校ノ入學試驗ニ立會ハシメ又ハ入學試驗問題及其答案ヲ查閱セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該官吏ハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ中學校令施行規則ニ依リ文部大臣ニ届出ツヘキ事項ニ關シテハ各、其ノ規定ニ依ルヘシ（明治三十四年文部省令第五號ヲ以テ改正）

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第三十九條第二項、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シ之ヲ準用ス（明治三十四年文部省令第五號同）

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條ノ規定ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但認定ノ効力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

前項ノ生徒ニ關シテハ第五條ノ表簿ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 認定ヲ受ケタル學校ハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校ノ代表者ニ於テ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ左ノ事項ヲ文部大臣ニ開申スヘシ但特別ノ規定ニ

依リ文部大臣ニ開申スヘキ事項ニ付テハ各其規定ニ依ルヘシ

一 學校長及教員ノ氏名、資格、學業經歷、分擔學科及專任兼任ノ區別 (明治三十六年文部省令第三十號ヲ以テ改正)

二 現在生徒學年及學級別員數

三 前學年中ノ卒業生員數及卒業後ノ情況

四 當該學年ニ於ケル入學生徒數

五 當該年度經費豫算ノ細目

六 教科書目錄

前項第二號及第四號ニ規程セル事項ハ認定ノ効力ヲ享ケル者ト享ケサル者トニ區別シ又前項第三號ノ規定中卒業後ノ情況ハ認定ノ効力ヲ享ケタル者ニ限り記載スヘシ (明治三十六年文部省令第三十號ヲ以テ改正)

第八條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シ又ハ其成績不良ナリト認めタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向テ其認定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附 則

第十條 本令ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十六年文部省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行前ニ爲シタル認定ハ尙其効力ヲ有ス但本令ニ抵觸スル事項アルトキハ當該學校ニ於テ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ修正スヘシ

(參照)

文部省令第十五號

一 明治二十一年文部省令第三號ヲ本月十日限廢止ス

一 明治二十一年文部省令第三號ニ依リ從前學則ヲ認可シタル私立學校ニシテ中學校卒業ノ者若クハ中學校ノ程度ニ依リ相當ナル設備ノ學科ヲ修メタル者ヲ入學セシムルモノハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認め仍舊兵令第十三條ニ依ルコトヲ得シム

但將來從前ノ學則ヲ變更スル場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ請フヘク地方長官ハ之ヲ文部大臣ニ開申スヘシ

(備考)

明治三十六年文部省令第三十號ヲ以テ改正ノ條項ハ同八月十五日ヨリ施行

現ニ認定ヲ受ケル公立又ハ私立ノ學校ニシテ專門學校令第十五條第一項ニ該當シ未認可ヲ受ケサルモノニ入學スル者ノ資格ハ明治三十七年三月三十一日マテハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ニ依リ入學スル生徒並ニ現ニ認定ヲ受ケル公立又ハ私立ノ學校ニシテ專門學校令第十五條第一項ニ該當スルモノニ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對シテハ本令施行後仍認定ノ効力ヲ及ボス

○陸軍補充條例第七條ニ依リ指定スヘキ學校ノ要件

明治三十年五月三十一日
文部省訓令第五號

北海道廳 府縣

明治二十九年勅令第三百七十九號陸軍補充條例第七條第二ニ依リ指定スヘキ郡市町村立及私立中學校ハ左記第一項ノ各目ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ左記第二項各目ノ調書ヲ具シテ稟申スヘシ

第二編

認定及指定 (陸軍補充條例第七條ニ依リ指定スヘキ學校ノ要件)

第一項

- 一 教員中其半數以上ハ專任ニシテ且中學校ノ教員免許狀ヲ有スルモノ
- 二 毎年ノ經常費金五千圓以上ノモノ
- 三 現在生徒ノ總數二百名以上ノモノ
- 四 中學校トシテ設置ノ認可ヲ得タル以來三學年ヲ經過シ成績佳良ナルモノ
但中學校トシテ認可ヲ得タル前設置シタル學校ニシテ中學校類似ノ課程ヲ設ケ既ニ卒業生アリテ其成績佳良ナルコトヲ證明スルニ足ルヘキモノハ本文ノ年限ヲ經過スルヲ要セズ

第二項

- 一 設立年月及其後ノ沿革
- 二 入學規定
- 三 學科及其程度、日課表
- 四 學級及組ノ編制、現在生徒數
- 五 教員ノ數及其資格並ニ分擔學科
- 六 卒業生ノ數及卒業後ノ狀況
- 七 教科用及參考用圖書目
- 八 敷地校舍及教授用器械等ノ設備
- 九 校費(經常ト臨時トヲ別ツ)及維持ノ方法

十 校長又ハ校主ノ履歷

其他試驗規則、校則等

(參照)

勅令第三百七十九號陸軍補充條例

第七條 士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

- 一 官立、府縣立中學校若クハ文部大臣ノ指定シタル中學校ヲ卒業シ該校長ノ保證並ニ入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得タル者

○徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等以上ト認定ノ公立私立學校
明治三十二年 八月三十一日現在

道廳府縣	設立別	學 校 名	發 令 年 月 日	文部省告示番號	備 考
北海道廳	廳 立	元函館商業學校	明治二十三年三月二十五日	三	明治二十八年四月廢止
	廳 立	函館中學校元商業專修科	同二十九年三月三十一日	四	同三十年六月專修科廢止
	廳 立	函館商業學校本科	同三十二年六月六日	八二	
	私 立	獨逸學協會學校中學	同二十年四月四日	一	同三十年五月獨逸學協會學校ヲ獨逸學協會學校中學校ト改稱
私 立	立	成城學校 <small>幼年學科ヲ除ク</small>	同二十二年十二月十七日	二二	

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等) 以上ノ認定ノ公立私立學校

東京府	私立明治法律學校	同二十六年一月四日	省令一五	同三十二年文部省令第三十四號ヲ以テ同二十六年同省令第十五號ニ依リテ廢止セルモ同號ニ依リテ認定ノ效力繼續
	私立東京法律學校	同二十六年一月四日	省令一五	同三十二年文部省令第三十四號ヲ以テ同二十六年同省令第十五號ニ依リテ廢止セルモ同號ニ依リテ認定ノ效力繼續
	私立專修學校	同二十七年一月十七日	一	同三十一年十月廢止
	私立東京專門學校	同二十九年九月十七日	一八	
	私立元水産傳習所	同二十九年九月十七日	一八	
	私立慶應義塾普通科、高等科、大學部	明治二十二年五月九日	三	
京都府	府立京都府醫學學校	同二十一年六月二日	二六	
	府立京都府商業學校	同二十一年七月五日	六	
市	市立京都市美術工藝學校	同二十三年五月二十一日	六	明治二十三年五月府立京都府商業學校ヲ市立ニ變更東京市商業學校同二十四年八月京都市美術工藝學校同二十七年十二月京都市美術工藝學校ト改稱
	市立京都市美術工藝學校	同二十三年五月二十一日	六	
大阪府	府立大阪醫學學校	同二十二年五月九日	三	
	府立大阪府立農學校	同二十四年七月二十四日	一〇	

五三〇

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等) 以上ノ認定ノ公立私立學校

神奈川縣	市立大阪商業學校	明治二十三年二月六日	二	同廿三年二月府立大阪商業學校ヲ市立ニ變更
	市立橫濱商業學校 <small>夜學科ヲ除ク</small>	同二十五年六月十七日	四	
兵庫縣	縣立神戸商業學校	同二十二年七月五日	八	
	縣立兵庫縣農業學校	同二十二年四月一日	一七	
長崎縣	市立長崎商業學校	同二十二年九月十八日	一七	
	私立中學鳳鳴義塾	同二十一年三月一日	一三	
新潟縣	縣立中學玖島學館	同二十一年三月十六日	一	同廿九年六月大村中學校ヲ中學玖島學館ト改稱
	縣立中學猶興館	同二十一年八月十日	一三	同三十一年八月猶興館ヲ中學猶興館ト改稱
埼玉縣	縣立元新潟縣農學校	同二十五年九月二十五日	一	同二十四年三月廢止
	郡立長岡中學校	同二十七年三月十七日	一八	
群馬縣	郡立中頸城中學校	同三十一年八月二十六日	四九	
	市立新潟商業學校本科	同二十六年四月二十日	一四	
群馬縣	組合立北蒲原中學校	同二十六年八月二十六日	四九	
	私立埼玉中學校	同二十七年七月十九日	六	
群馬縣	町立桐生織物學校 <small>本政科專攻科</small>	同三十二年五月九日	六七	

五三一

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等)
 (以上ト認定ノ公立私立學校)

千葉縣	私立	元佐倉中學校	四月八日	三三	明治三十一年四月
	縣立	茨城縣農學校	六月十四日	八三	同三十一年三月專修科
茨城縣	縣立	栃木縣中學校元農業專修科	六月十五日	二	同三十一年三月專修科
	縣立	栃木縣工業學校	一月二十九日	一	同三十一年三月專修科
栃木縣	縣立	栃木縣農學校	同三十一年	八	
	市立	四日市商業學校	同三十一年	四	
三重縣	私立	神宮皇學館	十二月廿四日	七二	同三十一年五月豫科廢止
	縣立	愛知醫學校	五月九日	三	同三十一年四月縣立ニ變更
愛知縣	市立	名古屋商業學校	同三十一年	五	同三十一年七月組合立ニ變更
	町立	豐橋中學時習館	同三十一年	三	
静岡縣	郡立	元非山中學校	明治二十九年	五	同三十一年七月組合立ニ變更
	組合立	元静岡縣濱松中學校	同三十一年	三	同三十一年四月縣立ニ變更
組合立	静岡縣中遠農學校	同三十一年	五五		

五三二

滋賀縣	縣立	滋賀縣商業學校	同二十八年	二〇	
	縣立	滋賀縣農學校	同三十一年	二一	
長野縣	郡立	諏訪實科中學校	同三十一年	一	
	縣立	宮城農學校	同三十一年	七	
宮城縣	縣立	福島縣蠶業學校	同三十一年	六	
	縣立	元巖手獸醫學校	同二十七年	五	同三十一年四月廢止
巖手縣	縣立	巖手縣農學校	同三十一年	三九	
	縣立	山形縣中學校農業專習科	同二十七年	四	
山形縣	縣立	山形縣工業學校	同三十年	一四	同卅一年四月市立米澤市工業學校ヲ縣立ニ變更
	縣立	秋田縣中學校元農業專修科	同二十六年	一	同二十七年四月廢止
秋田縣	縣立	秋田縣農學校(養蠶別科生ヲ除ク)	同三十一年	四七	
	縣立	福井縣農學校	同三十一年	一九	
福井縣	縣立	石川縣農學校	同三十一年	一九	
	縣立	石川縣農學校	同三十一年	一九	
石川縣	縣立	石川縣農學校	同三十一年	一九	
	縣立	石川縣農學校獸醫學科	同三十一年	二	
縣立	石川縣農學校補習科	同三十一年	六四		

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等)
 (以上ト認定ノ公立私立學校)

五三三

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等) (以上ト認定ノ公立私立學校)

山口縣	那	立山口縣大島甲種商船學校 <small>航海學部 機關學部</small>	五月二十二日	七四	同三十二年七月山口縣 大島郡大島海員學校ヲ 校ト改稱
廣島縣	縣	立山口縣農業學校 <small>第一部 農學科 獸醫學科</small>	六月二十日	三〇	同三十二年四月山口縣 農學校ヲ校ト改稱
	縣	立元山口縣農業學校 <small>獸醫學科 ヲ除ク</small>	七月二十四日	二	同三十一年三月山口縣 農學校ヲ山口縣農業學 校ト改稱同年六月認定廢止
岡山縣	郡	立豐田中學校	五月廿九日	一三	同三十二年七月組合ヲ 郡立ニ變更
	縣	立廣島縣商業學校 <small>本 科 專攻科</small>	六月廿四日	八六	
鳥取縣	縣	立岡山縣商業學校 <small>獸醫學科 農科</small>	六月廿四日	五八	
	縣	立岡山縣農業學校 <small>獸醫學科 農科</small>	五月十五日	七〇	
富山縣	縣	立富山縣農學校 <small>本 科</small>	五月廿二日	七三	
	縣	立元鳥取縣農學校 <small>獸醫學科 ヲ除ク</small>	七月十五日	四	同二十八年九月簡易農 學校ニ組織變更ノ認定 消滅
鹿兒島縣	縣	立元鳥取縣農學校 <small>獸醫學科 ヲ除ク</small>	七月十五日	七	
	縣	立鳥取縣農學校 <small>獸醫學科 本 科</small>	七月十五日	五六	
富山縣	縣	立富山縣工業學校專攻科	七月十五日	六	明治二十六年六月廢止
富山縣	縣	立富山縣工業學校專攻科	七月十五日	六	

第二編 認定及指定 (徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度同等) (以上ト認定ノ公立私立學校)

高知縣	市	立赤間關商業學校	一月十五日	一	
福岡縣	縣	立高知縣農學校 <small>本 科</small>	五月二十二日	六一	
	縣	立福岡工業學校	七月二十九日	一〇	
大分縣	市	立久留米商業學校 <small>本 科</small>	一月三十一日	三	
	縣	立大分縣農學校 <small>別科ヲ 除ク</small>	六月十五日	三	
佐賀縣	縣	立佐賀縣農學校	六月三十一日	二四	
	縣	立佐賀縣工業學校 <small>木工科 金工科</small>	六月三十一日	二四	
熊本縣	組合	立元東松浦實科中學校	明治廿八年	四	明治二十九年四月廢止
	縣	立熊本縣工業學校 <small>木工科 金工科 染織工科</small>	六月廿八日	三六	
宮崎縣	市	立熊本商業學校 <small>本 科</small>	四月三十日	六	
	縣	立元九州學院普通部	十月二十日	一	同二十三年十一月濟々 院九州學院普通部ト改 稱同二十七年四月縣立 ニ變更
鹿兒島縣	縣	立宮崎縣中學校農業專修科	四月二十日	一	
	縣	立宮崎縣獸醫學校	四月二十日	八	
鹿兒島縣	縣	立鹿兒島縣農學校 <small>本 科</small>	十一月十二日	六五	
	市	立鹿兒島商業學校 <small>本 科</small>	一月十三日	四	

○文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等以上ノ認定ノ官立公立學校 明治四十年末現在

省道廳府縣	設立別	學 校 名	年 月 日	令 號	文 部 省 示 告 番 號	備 考
宮 內 省	官 立	立學習院中等學科及元尋常中學校	明治二十九年六月二十五日	六	六	
官 立	立學習院高等學科		同二十六年五月十五日	一〇三		
官 立	立陸軍幼年學校		同二十九年六月二十五日	六		
陸 軍 省	官 立	立陸軍中央幼年學校	同三十一年十月三十一日	六〇		
司 法 省	官 立	立元司法省法學校豫科				
官 立	立元東京大學豫備門					
官 立	立元師範學校					
官 立	立元東京英語學校					
官 立	立元外國語學校					
官 立	立元東京職工學校	但速成科及撰科ヲ除ク	同二十九年六月二十五日	六		
官 立	立農科大學元豫科、乙科、元農學科乙科水産科					
官 立	立元高等中學校豫科					明治二十七年九月高等學校ト改稱

省 道 廳 府 縣	設立別	學 校 名	年 月 日	令 號	文 部 省 示 告 番 號	備 考
文 部 省	官 立	立高等商業學校				
官 立	立東京工業學校	但撰科及附屬職工徒弟講習所ヲ除ク				
官 立	立札幌農學校	但豫科ハ明治二十年三月以後ノ規則ニ依リタルモノ				明治廿八年四月北海道廳日ノ文部省ニ所轄管
官 立	立元第三高等中學校法學部					
官 立	立元高等中學校醫學部					
官 立	立高等學校 (大學豫科) (各專門學部)		明治三十年六月二日	一五		
官 立	立大阪工業學校		同二十八年十月二十八日	二二		同十八年十二月工部省廢止文部省ニ轉屬
官 立	立元工部大學校專門學及專門科					同三十二年四月高等商業學校附屬外國語學校ヲ東京外國語學校ト改稱
官 立	立東京外國語學校正科		同三十一年四月十三日	二		
官 立	立東京美術學校正科		同三十二年三月八日	一四		
官 立	立工業教員養成所本科		同三十二年三月九日	六八		
官 立	立札幌農學校農藝科		同二十六年三月十三日	五三		
官 立	立札幌農學校森林科		同二十三年四月二日	九三		
官 立	立臺灣總督府國語學校師範部甲科中學部		同二十二年八月二日	三〇		
官 立	立臺灣總督府中學校		同二十七年九月十六日	一七		
官 立	立東京帝國大學農科大學	農學實科 林學實科 獸醫學實科				

認定及指定 (文官任用令第三條第三ニ依リ中學校ノ學科程度同等) 以上ノ認定ノ官立公立學校

新瀉縣	長崎縣	兵庫縣	神奈川縣	大阪府		
郡 立 中魚沼染織學校 (推科生ヲ除ク)	市 立 長崎商業學校本科	縣 立 兵庫縣蠶業學校本科	郡 立 中郡立中郡農業學校	市 立 大阪高等商業學校甲種商業科	市 立 京都市美術工藝學校	
町 立 元高田中學校高等中學校 (但明治二十七年改正規則ニ依リ大綱ニ依リタル者)	縣 立 元新瀉縣農業學校 (但明治二十二年九月改正規則ニ依ルモ)	縣 立 兵庫縣蠶業學校	市 立 橫濱商業學校	府 立 大阪府立農業學校農科及獸醫科	府 立 京都市染織學校	
市 立 新瀉商業學校本科 (但明治二十七年改正規則ニ依ルモ)	府 立 元新瀉縣農業學校 (但明治二十二年九月改正規則ニ依ルモ)	縣 立 兵庫縣蠶業學校	郡 立 中郡立中郡農業學校	市 立 大阪商業學校本科	府 立 大阪府立農業學校農科及獸醫科	
同 三十四年 七月十二日	同 三十四年 六月廿九日	同 三十二年 四月一日	同 三十四年 六月廿九日	同 三十四年 六月廿九日	同 三十三年 二月六日	
一三	二五	一八	七	六	二〇	

認定及指定 (文官任用令第三條第三ニ依リ中學校ノ學科程度同等) 以上ノ認定ノ官立公立學校

京都府	東京府	北海道廳	府	農商務省
府 立 京都府農業學校 (明治三十一年四月以後入學生ニ限ル)	府 立 京都市商業學校本科	府 立 函館商業學校本科	府 立 元東京農林學校豫備科及豫科	官 立 元駒場農學校別科
府 立 京都市商業學校本科	府 立 函館商業學校本科	府 立 函館商業學校元商業專修科	府 立 元東京農林學校豫備科及豫科	官 立 元東京農林學校乙科、速成科、別科簡易科
府 立 京都市商業學校本科	府 立 函館商業學校本科	府 立 函館商業學校元商業專修科	府 立 元東京農林學校豫備科及豫科	官 立 元東京農林學校乙科、速成科、別科簡易科
府 立 京都市商業學校本科	府 立 函館商業學校本科	府 立 函館商業學校元商業專修科	府 立 元東京農林學校豫備科及豫科	官 立 元東京農林學校乙科、速成科、別科簡易科
同 三十一年 六月二十一日	同 三十四年 九月二十五日	同 三十四年 六月二十五日	同 二十六年 六月二十五日	同 二十九年 六月二十五日
二七	一四	一六	六	六

認定及指定 (文官任用令第三條第三ニ依リ中學校ノ學科程度同等) 以上ノ認定ノ官立公立學校

第二編 認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
 (以上ノ認定ノ官立公立學校)

愛知縣		三重縣		柘木縣		茨城縣		群馬縣	
縣立愛知縣農林學校 (實習科生ヲ除ク)	縣立愛知縣工業學校 (撰科生及聽講生ヲ除ク)	市立名古屋商業學校	縣立三重縣科工業學校	縣立柘木縣農學校本科	縣立柘木縣工業學校本科	縣立商業學校	縣立茨城縣農學校 <small>本科 專攻科 補習科</small>	町立群馬縣伊勢崎染織學校 <small>本科 專攻科</small>	縣立新潟縣立工業學校
同 三月二十七日	同 二月二十四日	同 五月二十日	同 三月二十八日	同 四月三十日	同 三月三十日	同 三月廿六日	同 六月十四日	同 五月九日	同 三月二十七日
五六	三五	一〇	六七	一七	六三	八三	二六	三七	三七

第二編 認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
 (以上ノ認定ノ官立公立學校)

靜岡縣		滋賀縣		岐阜縣		宮城縣		福島縣		巖手縣	
組合立靜岡縣中遠農學校本科	町立靜岡縣濱松町立濱松商業學校	郡立靜岡縣濱名郡立蠶業學校	縣立滋賀縣商業學校 <small>但明治二十二年十月以後ノ規則ニ依リタルモノ</small>	縣立滋賀縣農學校本科	縣立元岐阜縣華陽學校農學部 <small>本科</small>	縣立元岐阜縣農學校本科	縣立岐阜縣立岐阜縣農學校 <small>但別科生ヲ除ク</small>	縣立宮城縣市立仙臺商業學校本科	縣立宮城縣市立遠田郡甲種農學校 <small>(別科生ヲ除ク)</small>	縣立宮城縣郡立牡鹿水產學校	縣立福島縣蠶業學校本科
同 四月廿八日	同 一月四日	同 二月十八日	同 六月二十五日	同 四月一日	同 一月廿五日	同 一月廿五日	同 十一月五日	同 三月三十一日	同 三月三十一日	同 三月十八日	同 三月十八日
五五	四	二九	六	二二	一	二九	三九	六	七	一五	四〇

第二編

認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
以上下認定ノ官立公立學校

青森縣		山形縣		秋田縣		福井縣		石川縣	
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
青森縣專門學校本科	青森縣立農業學校	立山形縣中學校農業專修科	立山形縣工業學校本科	立山形縣立庄內農學校	立山形縣立置賜農學校	立秋田縣農業學校本科	立秋田縣立工業學校	立福井縣小濱水產學校	立福井縣專門學校
同三十四年四月	同三十三年一月廿七日	同三十一年四月十三日	同三十三年五月二日	同三十四年四月二十四日	同三十四年十月十一日	同三十二年四月二十日	同三十二年二月二十八日	同三十五年十一月廿七日	同三十五年六月二十五日
一七	一九	三一	一八	二六	二八	二八	二〇	一七	六

富山縣		鳥取縣		山口縣		高知縣		福岡縣	
縣	市	縣	縣	縣	市	縣	市	縣	市
立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
富山縣工業學校	富山縣富山市立富山商業學校	立鳥取縣農業學校	立鳥取縣農業學校	立山口縣農業學校	立赤間關商業學校	立山口縣立工業學校	立高知縣農學校本科	立福岡縣立福岡農學校	立福岡縣立福岡工業學校
同三十三年四月七日	同三十三年六月二十八日	同二十九年八月五日	同二十九年九月十二日	同三十一年六月廿五日	同廿九年六月廿五日	同廿九年六月廿五日	同廿九年六月廿五日	同廿九年六月廿五日	同廿九年六月廿五日
一〇六	一〇六	一四	一七	三一	六	六	六	一七	一七

第二編

認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
以上下認定ノ官立公立學校

第二編 認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
 (以上ノ認定ノ官立公立學校)

宮崎縣		熊本縣				佐賀縣			大分縣					
郡	縣	縣	縣	市	縣	縣	郡	縣	縣	縣	縣	縣		
立宮崎縣兒陽郡立農業學校	立宮崎縣農學校 (別科生ヲ除ク)	立宮崎縣獸醫學校	立宮崎縣中學校農業專修科	立熊本縣商業學校本科	立熊本縣立第一農業學校 (但別科生ヲ除ク)	立熊本縣立阿蘇農業學校 (別科生ヲ除ク)	立熊本縣立球磨農業學校	立佐賀縣立有田工業學校 (別科生ヲ除ク)	立佐賀縣工業學校 (木工科 金工科)	立佐賀縣農學校	立大分縣立農林學校 (養蠶別科ヲ除ク)	立大分縣農學校本科	立福岡縣立小倉工業學校	立福岡縣立久留米工業學校
同三月廿八日	同四月廿二日	同七月廿七日	同四月廿一日	同五月廿一日	同四月廿八日	同三月廿五日	同四月廿一日	同六月廿六日	同六月廿一日	同六月廿一日	同八月廿九日	同八月廿九日	同一月廿四日	同一月廿四日
四〇	九五	一七	六四	一一	一一	四一	五八	二五	二五	二五	八	一四	一三	一三

五四四

鹿兒島縣		長野縣				岡山縣			島根縣		臺灣		香川縣			
縣	市	縣	郡	郡	市	縣	縣	縣	縣	縣	市	縣	縣	縣		
立鹿兒島農學校本科	立鹿兒島商業學校本科	立鹿兒島縣立大島農學校	立長野縣上伊那郡立上伊那甲種農學校正科	立長野縣小縣郡立小縣蠶業學校	立長野縣西筑摩郡立甲種木曾山林學校	立長野縣長野市立甲種商業學校	立岡山縣立農學校	立岡山縣立商業學校	立岡山縣立工業學校	立岡山縣勝田郡英田郡組合立農林學校	立島根縣立島根縣農林學校	立島根縣立島根縣商業學校	臺灣總督府警察官及司獄官練習所 (但乙科生ヲ除ク)	立香川縣高松市立高松商業學校	立香川縣立商業學校	立香川縣立工業學校
同十一月廿二日	同十一月廿二日	同四月廿七日	同十月十五日	同八月十七日	同十二月廿四日	同四月十九日	同一月十三日	同四月十一日	同十二月十六日	同五月廿一日	同六月廿一日	同七月廿七日	同七月廿六日	同十一月十四日	同三月廿五日	同三月廿七日
六六	五	七九	一三	一六	三六	九五	四	七〇	二〇	三三	一六	一六	一三	一六	五一	二三

第二編 認定及指定 (文官任用令第三條第三三依り中學校ノ學科程度同等)
 (以上ノ認定ノ官立公立學校)

五四五

○高等女學校位置 明治三十三年十月三日 愛媛縣告示第百八十七號

明治三十四年四月一日ヨリ縣立高等學校ヲ左ノ通設置ス

- 松山高等女學校 溫泉郡雄群村
- 宇和島高等女學校 北宇和郡宇和島町
- 今治高等女學校 越智郡今治町

○出征又ハ應召軍人家族ニシテ授業料納付ニ付困難ノ事情

アル生徒ニ對シ減免ノ件 明治三十七年五月十一日 愛媛縣令第三十七號

本縣立中學校高等女學校生徒及師範學校附屬小學校兒童中出征又ハ應召ノ軍人ノ家族ニシテ授業料納付ニ付困難ノ事情アル者ニ對シテハ當該學校長ニ於テ知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得

第三編 高等學校

○總則

○高等學校令 明治二十七年六月二十三日 勅令第七十五號

第一條 第一高等中學校、第二高等中學校、第三高等中學校、第四高等中學校及第五高等中學校ヲ高等學校ト改稱ス

第二條 高等學校ハ專門學科ヲ教授スル所トス但帝國大學ニ入學スル者ノ爲メ豫科ヲ設クルコトヲ得

第三條 高等學校ハ其ノ附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等學校ニ於テ設クル所ノ學科及講座ノ數ハ文部大臣之ヲ定ム (明治二十七年文部省令第拾七號ヲ以テ第三高等學校法學部工學部各高等學部醫學部ノ學科目及講座數同三十年文部省令第拾七號ヲ以テ第五高等學校工學部ノ學科目及講座數公布)

附則

第五條 本令ハ明治二十七年九月十一日ヨリ施行ス但各高等學校ニ於テ學科ヲ設置スルノ時期ハ文部大臣之ヲ指定スヘシ

本令ヲ施行シ又ハ一部ヲ施行スル所ノ高等學校ニ於テ高等中學校ノ學科ヲ履修スル年期内ニ在ル生徒ノ爲ニ舊學科ヲ存スルコトヲ得

◎教則及設備

○高等學校大學豫科入學者資格

明治四十一年三月十八日 文部省令第九號

高等學校大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルヘシ

- 一、中學校ヲ卒業シタルモノ
- 二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者
- 三、專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者但シ某學校ノ入學ニ限リ指定ヲ受ケタルモノヲ除ク

○第三高等學校法學部工學部及各高等學校醫學部ノ學科目

及講座數

明治二十七年七月十七日 文部省令第拾七號

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令第四條ニ依リ第三高等學校ニ設置スル法學部工學部及各高等學校ニ設置スル醫學部ノ學科目及講座數ノ數左ノ如シ

經濟學
法學通論民法

一講座
三講座

憲法行政法
國際法

一講座
一講座

刑法刑事訴訟法

商法

一講座
一講座

民事訴訟法裁判所構成法

一講座

前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ國語及漢文、論理、體操ヲ置キ隨意科トシテ外國語ヲ置ク

工學部

數學 (明治二十九年文部省令第九號ヲ以テ改正)

二講座

土木工學

三講座

物理學力學

二講座 (同)

機械工學

二講座

化學

二講座 (同)

應用化學

二講座 (同)

地質學鑛物學

二講座 (上)

採鑛冶金學

二講座 (同上)

圖畫測量

二講座

前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ體操ヲ置キ隨意科トシテ外國語ヲ置ク

醫學部

解剖學組織學

二講座

外科學

二講座

生理學

一講座

眼科學

一講座

衛生學法醫學

一講座

產科學婦人科學

一講座

病理學

一講座

藥學

三講座

內科學藥物學

三講座

但第三高等學校醫學部ニ於テハ藥學ヲ設ケス

前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ醫用動物學醫用植物學醫用物理學醫用化學體操ヲ置
キ隨意科トシテ外國語ヲ置ク

○第五高等學校工學部ノ學科目及講座數

明治三十年五月十七日
文部省令第六號

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令第四條ニ依リ第五高等學校工學部ノ學科及講座ノ數ヲ定
ムルコト左ノ如シ

數學力學	一講座	圖畫測量	二講座
物理學	一講座	土木工學	三講座
化學地質礦物製造冶金學	一講座	機械工學	二講座

前ニ掲ケタル學科目ノ外必修科トシテ國語及漢文外國語體操ヲ置ク

○高等學校大學豫科學科規程

明治三十三年八月四日
文部省令第十三號

明治二十七年文部省令第十八號高等學校ニ設置スル大學豫科ノ學科規程ヲ左ノ通改正ス

高等學校大學豫科學科規程

第一條 高等學校大學豫科ノ學科ヲ分テテ第一部、第二部及第三部トス

第一部ノ學科ハ法科大學及文科大學志望者ニ第二部ノ學科ハ醫科大學ノ藥學科、工科大學、理
科大學、理工科大學及農科大學志望者ニ第三部ノ學科ハ醫科大學志望者ニ課スルモノトス(明治
三十

明治三十三年八月四日
文部省令第十三號
高等學校大學豫科學科規程

五年文部省令第
十號ヲ以テ追加)

第二條 第一部ノ學科ハ倫理、國語及漢文、外國語、歷史、論理及心理、法學通論、體操トス

前項ノ學科ノ外文科大學志望者ニハ經濟通論ヲ課ス

前二項ノ學科中文科大學哲學科志望者ニハ論理及心理ヲ缺キ數學、物理ヲ課ス

外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中ニ就キ二種ヲ選ハシム

第一項ノ學科ノ外法科大學志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第三條 第二部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、數學、物理、化學、地質及礦物、圖畫、體操トス

前項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科、理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志
望者ニハ動物及植物ヲ課シ工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、電氣工學科、採
礦及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、採
理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニハ測量ヲ課ス(明治三十
五年文部
省令第十號
ヲ以テ追加)

外國語ハ英語ノ外獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工科大學及理工科大學ノ電氣工學科、應用化學
科、製造化學科、採礦及冶金學科並ニ農科大學志望者ハ必ス獨語ヲ選フヘキモノトス

第一項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ
獸醫學科志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得(明治三十五年文部省
令第十號ヲ以テ追加)

第四條 第三部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、羅旬語、數學、物理、化學、動物及植物、體操トス

外國語ハ獨語ノ外英語又ハ佛語ヲ選ハシム

外國語ハ獨語ノ外英語又ハ佛語ヲ選ハシム

第五條 各部各學科ノ每週授業時數ハ左ノ如シ

第一部

學科	第一一年	第二二年	第三三年
倫理			一
國語及漢文	六	五	四
英語	(九)	(九)	(八)
獨語	(九)	(九)	(八)
佛語	(九)	(九)	(八)
歷史	三	三	三
論理及心理		二	
法學通論			二
經濟通論			(二)
體操	三	三	三

備考

表中()ハ選擇科目ノ時數ヲ表シ○ハ文科大學志望者ニノミ課スル時數ヲ表ス

文科大學哲學科志望者ニハ第三年ニ於テ國語ヲ缺ク且之ニ課スヘキ數學、物理ノ授業時數左ノ如シ

計	第一一年	第二二年	第三三年
計	三〇	三一	二九
數學		二	
物理			二

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ獨逸法又ハ佛蘭西法ヲ選修スル法律學科並ニ文科大學ノ獨逸文學科、佛蘭西文學科ニ志望スル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學科	第一一年	第二二年	第三三年
英語	四	四	四
獨語又ハ佛語	一四	一四	一二

隨意科トシテ法科大學志望者ニ課スヘキ羅旬語ノ授業時數左ノ如シ

學科		第一	第二	第三
年		年	年	年
羅	甸			
語	語			
第二部				
倫	理	第一	第二	第三
國	語	三		
英	語	八	七	
獨	語又ハ佛語	八	七	
數	學	五	四	六
物	理		三	三
化	學		三	五
地	質及鑛物			二
圖	畫	四	四	二
講義三 實驗三				

第三年ニ於テ理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、獸醫學科志望者ニハ數學ヲ缺キ工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科及理科大學ノ星學科志望者ニハ化學ノ實驗ヲ缺キ理科大學ノ各學科、理工科大學ノ數學科、物理學科、純正化學科及農科大學志望者ニハ圖畫ヲ缺キ農科大學林學科志望者ニハ英語ヲ缺ク

理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志望者ニ課スヘキ動物及植物ノ授業時數左ノ如シ

學科		第一	第二	第三
年		年	年	年
體	操	三	三	三
計				
三三三				
三〇三				
動物及植物		第一	第二	第三
學	科	年	年	年
工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、電氣工學科、採鑛及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニ課スヘキ測量ノ授業時數左ノ如シ				
測	量	第一	第二	第三
學	科	年	年	年
三				

隨意科トシテ理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科上學ノ獸醫學科志望者ニ課ス
ヘキ羅旬語ノ授業時數左ノ如シ

第三部

學科	年		
	第一	第二	第三
羅旬語			
倫理			
國語	三		
獨語	一三	一三	一〇
英語又ハ佛語	三	三	三
羅旬語			
數學	三	二	
物理			三
講義 實驗			三三 三六

學科	年		
	第一	第二	第三
化學			
動物及植物	四	實驗	三
體操	三	三	三
計	二九	三〇	三一
講義 實驗			三三 三六

獨語ヲ以テ入學シタル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學科	年		
	第一	第二	第三
獨語	九	九	八
英語又ハ佛語	七	七	五

第六條 前條ノ各學科ハ生徒卒業後分科大學各學科ノ授業ヲ受クルニ足ルヘキ豫備ノ程度ヲ以テ標準トナスヘシ

第七條 學科長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ分科大學某科志望者ニ課スヘキ一學科若ハ數學科ヲ其學校ニ置カサルコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ際現ニ第二年又ハ第三年ノ課程ヲ修ムル者ニ就キテハ其卒業ニ至ルマテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ舊規程ニ依リ若ハ新舊ノ規程ヲ斟酌シテ之ヲ教授スルコトヲ得

○高等學校大學豫科學科規程改正ノ要領並文部大臣ノ意見

明治三十三年八月四日
文部省訓令第九號

各 高 等 學 校

高等學校大學豫科ニ關スル現行ノ規程ハ概テ數年前ノ制定ニ係リ改正ヲ要スヘキモノ尠カラズ茲ニ文部省令第十三號ヲ發布シ其ノ學科規程ヲ改正シタルハ既往ノ實驗ニ徴シ特ニ緊急改正ノ必要ヲ認メタレハテリ依テ左ニ其ノ要領ヲ表示シ併セテ本大臣ノ意見ヲ開陳ス各學校長及教官ハ宜シク其ノ意ヲ體シ該令ノ旨趣ニ副ハムコトヲ務ムヘシ

高等學校大學豫科ハ帝國大學ノ豫備教育ヲ施ス處ナルヲ以テ大學ニ於ケル各專門學科ノ授業ヲ受クルニ必要ナル知識ヲ授クルヲ以テ目的トシ豫備學科ノ區劃多岐ニ涉リ其ノ修得スル所却テ散漫ニ流ル、カ如キハ務メテ之ヲ避ケサルヘカラス故ニ新規程ニ於テハ豫備學科ノ區劃ハ成ルヘク之ヲ大體ニ止メ各學科ノ配當及其ノ授業時數等ニ適當ノ改正ヲ施シ以テ確實ナル豫備教育ノ本領ヲ完カラシメンコトヲ期ス

徳性ノ涵養ハ教育ノ第一義ニシテ高等學校ニ於テモ常ニ意ヲ此ニ致シ其ノ完成ヲ企圖スヘキハ固ヨリ辯ヲ俟タスト雖モ舊規程ニ於テハ倫理科ノ授業時數ニ一定ノ規定ナキヲ以テ各學校ニ於ケル

施行ノ方法齊一ナラス概テ毎週一時ヲ割テ該科ノ教授ニ充テタルカ如シ抑モ高等學校ノ生徒ハ既ニ小學ヨリ中學ニ至ルマテ多年ニ涉リテ實踐道德ノ教育ヲ受ケ來リタルモノナルヲ以テ高等學校ニ於ケル倫理科ハ故テニ修身ニ關スル授業ヲ施サス學校長常ニ德育ノ中心ト爲リ機ニ臨ミ生徒ヲ訓誡シ各教官ニ於テモ適切ノ方法ニ依リ常ニ其ノ品性ヲ誘掖陶冶スルコトヲ務メ第三年ニ至リ近世學理ノ上ヨリ人倫ノ大道ニ關スル稍ニ高尚ノ知識ヲ與ヘ平素學習セル學科上ノ知識トノ調和ヲ圖リ以テ倫理教育ノ上ニ圓滿ナル成果ヲ收メムコトヲ望ム

外國語ニ習熟セシムルハ各專門學科教授ノ豫備トシテ最必要ナルニ拘ハラズ之ヲ從來ノ經驗ニ徴スルニ高等學校ヲ卒業シ進ミテ大學ニ入ル者ノ缺點ハ外國語ノ力ノ不充分ナルニ在リ是レ改正規程ニ於テ各部ヲ通シテ著シク其ノ授業時數ヲ増加シタル所以ナリ而シテ此ノ増加シタル時間ニ於テハ適宜學科ニ關スル外國ノ參考書等ニ習熟セシムヘシ然レトモ語學ノ教授ハ單ニ授業時數ノ増加ノミニ依リテ必スシモ其ノ進歩改善ヲ望ミ得ヘキニアラス教授法ノ改善亦隨テ之ニ伴ハサルヘカラス故ニ當該教官ハ宜シク常ニ適切ナル教授方法ヲ攻究シ改正ノ旨趣ヲ空シカラシメサラントトヲ要ス

第二部及第三部ニ於テ特ニ著シク國語及漢文ノ授業時數ヲ減シタルハ該部專門學科ノ豫備トシテハ深ク文學上ノ知識ヲ授クルノ必要ナク能ク國語漢文ヲ調和シテ簡明達意ノ文ヲ綴リ得ルニ至ラシムルヲ以テ足レリトスレハナリ故ニ該部ニ於テハ其ノ名稱ヲ改メテ單ニ國語ト爲シ一層此ノ目的ニ適ハシメントス而シテ國語ト漢文トハ教育上最密接ノ關係ヲ有スル學科ナルヲ以テ第一部ニ於テ之ヲ教授スルニ方リテモ兩者ヲシテ成ルヘク相待テ相扶クテ適當ナル融合調和ヲ圖ラムコ

トヲ要ス

其ノ他改正ノ細目ニ就テハ敢テ茲ニ詳説セスト雖モ之ヲ要スルニ本改正ノ旨趣ニ基キ大學豫備教
育ノ實質的改善ヲ完ウスルハ各學校長及教官ノ周到ナル用意ニ待ツモノ多シトス

◎生徒

○高等學校大學豫科生徒入學區域

明治二十九年六月十一日
文部省訓令第四號

- 第一 高等學校 第二 高等學校
- 第四 高等學校 第五 高等學校

明治三十年四月以降其校大學豫科へ生徒ヲ入學セシムルハ高等中學校設置區域ニ依ラサル儀ト心
得ヘシ

○大學豫科入學試驗ノ程度等ニ關スル注意方

明治三十三年六月二十一日
文部大臣訓令

各高等學校

大學豫科ノ入學試驗ハ明治二十七年文部省令第十六號第二條ノ規定ニ依リ中學校卒業ノ學力ヲ以
テ其程度トナスヘキハ勿論ニ候處入學志望者ノ増加ニ伴ヒ選抜ノ精神ヨリ若シ右程度ヲ超越スル
カ如キコトアリテハ省令ノ規定ニ違反スルハ勿論延テ中學校ニ於ケル教科ノ程度ヲ高カラシムル

誘因トナルノ虞ナシトセス又試験ハ凡テ生徒ノ學力ヲ判定スル資トナスモノナレハ其問題ヲ選フ
ニ當リテハ須ク其程度、種類、員數等ニ就キ周密ノ注意ヲ要スル儀ニ候處若シ夫レ問題ノ程度高
尙ニ過キ或ハ其種類理論若ハ應用ノ一方ニ偏シ又其員數寡少ニ失スルカ如クハ審ニ試験ノ目的
ヲ達スルコトヲ得サルノミナラス諸般ノ弊害モ亦之カ爲メニ發生スルコトナキヲ保スヘカラス依
テ施行上此等ノ虞ナキ様共ニ一層深ク注意セララルヘシ

●第四編 帝國大學

◎總 則

○帝國大學令

明治十九年三月一日
勅令第三號

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其濫與ヲ攷究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ濫與ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス
- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ濫與ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學内部ノ秩序ヲ保持ス(明治二十六年勅令第八十二號ヲ以テ第五條乃至第十九條改正)
- 第六條 帝國大學ニ評議會ヲ設ク
評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス
- 第七條 教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學毎ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之ヲ命ス
前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再選セラレハコトヲ得
- 第八條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス

- 第一 各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件
- 第二 講座ノ種類ニ付諮詢ノ件
- 第三 大學内部ノ制規但勅令又ハ省令ヲ發スルノ必要アルモノハ其ノ建議案
- 第四 學位授與ノ件
- 第五 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件
- 評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第九條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學農科大學トス
- 第十條 分科大學長ハ分科大學ノ學務ヲ統理ス
- 第十一條 各分科大學ノ教官ハ教授及助教授トス
- 第十二條 必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得
- 第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上成績アル者ニ對シ勅旨ニ由リ又ハ文部大臣ノ奏宣ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ
- 第十四條 各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス
分科大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル
- 第十五條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス
- 第一 分科大學ノ學科程度ニ關スル件
- 第二 學生試験ノ件
- 第三 學位授與資格ノ審査

第四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件
 第十六條 分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得
 第十七條 各分科大學ニ講座ヲ置キ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム
 教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教教授又ハ囑託講師ヲシテ講座ヲ擔任セシムルコトアルヘシ
 第十八條 講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○京都帝國大學設置

明治三十年六月十八日 勅令第二百九號

第一條 京都ニ帝國大學ヲ置キ京都帝國大學ト稱ス
 第二條 京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學第一醫科大學第二醫科大學文科大學及理工科大學トシ第二醫科大學ハ之ヲ福岡ニ置ク
 第一醫科大學ヲ京都帝國大學京都醫科大學ト稱シ第二醫科大學ヲ京都帝國大學福岡醫科大學ト稱ス(三十二年勅令第五十四號ヲ以テ改正)
 第三條 京都帝國大學ノ分科大學及分科大學中ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年勅令第三十五號ヲ以テ理工科大學開設及其學科設置同三十一年文部省令第十四號ヲ以テ學科増設同三十二年文部省令第三十五號ヲ以テ法科大學及醫科大學開設並其學科設置公布)

○東北帝國大學設置

明治四十年六月二十一日 勅令第二百三十六號

第一條 仙臺ニ帝國大學ヲ置キ東北帝國大學ト稱ス
 第二條 札幌農學校ヲ東北帝國大學農科大學トス
 第三條 東北帝國大學ノ分科大學及分科大學中ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム
 第四條 東北帝國大學總長ノ職務ハ當分ノ内東北帝國大學農科大學長ヲシテ之ヲ行ハシム
 第五條 帝國大學令第六條乃至第八條ノ規定ハ當分ノ内東北帝國大學ニ之ヲ適用セス
 附 則
 本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎教則及設備

○東京帝國大學各分科大學講座種類及其數

明治二十六年九月七日 勅令第九十三號

東京帝國大學各分科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ(明治三十年勅令第二百十三號ヲ以テ改正)

憲法、國法學
 民法
 商法

二講座
 四講座(明治三十四年勅令第三十六號ヲ以テ改正)
 二講座(明治三十三年勅令第一八十七號ヲ以テ改正)

民事訴訟法
 刑法
 刑事訴訟法
 經濟學、財政學
 統計學
 政治學
 政治史
 外交史
 行政法
 國際公法
 國際私法
 法制史
 比較法制史
 羅馬法
 英吉利法
 佛蘭西法
 獨逸法

一講座
 一講座(上同)
 一講座(上同)
 三講座
 一講座
 一講座(上同)
 一講座(上同)
 一講座(明治三十九年勅令第
 六十八號ヲ以テ追加)
 二講座(明治三十四年勅令第
 三十六號ヲ以テ改正)
 二講座(明治三十一年勅令第
 百三十五號同三十四年勅令
 第三十六號ヲ以テ改正)
 一講座(明治三十一年勅令第
 百三十五號ヲ以テ改正)
 一講座(明治三十五年勅令第
 百二十五號ヲ以テ改正)
 一講座(上同)
 一講座
 二講座
 一講座
 一講座

法理學

醫科大學

解剖學
 生理學
 醫化學
 病理學、病理解剖學
 藥物學
 內科學
 產科學、婦人科學
 小兒科學
 外科學
 整形外科學
 眼科學
 皮膚病學、微生物學
 精神病學
 衛生學
 法醫學
 耳鼻咽喉科學

一講座
 三講座(明治三十三年勅令第
 八十七號ヲ以テ改正)
 二講座(明治三十四年勅令第
 三十六號ヲ以テ改正)
 一講座
 二講座
 一講座
 四講座(明治三十四年勅令第
 三十六號ヲ以テ改正)
 一講座
 一講座
 三講座
 一講座(明治三十九年勅令第
 六十八號ヲ以テ追加)
 一講座
 一講座
 二講座(明治三十九年勅令第
 六十八號ヲ以テ改正)
 一講座
 一講座(明治三十二年勅令第
 百三十號ヲ以テ追加)

齒科學
藥學
工科大学
土木工學
機械工學
造船學
船用機關學
造兵學
電氣工學
建築學
應用化學
火藥學
採鐵學、冶金學
材料及構造強弱學
力學
文科大學
國語學、國文學、國史
漢學、支那語學

- 一 座 (明治三十五年勅令第百)
- 三 講座
- 四 講座
- 三 講座 (明治二十九年勅令第百)
- 三 講座 (明治三十一年勅令第百)
- 二 講座 (同上) (明治三十九年勅令第百)
- 二 講座 (同上) (明治三十九年勅令第百)
- 三 講座 (明治三十一年勅令第百)
- 三 講座 (同上)
- 三 講座 (明治二十九年勅令第百)
- 一 講座
- 五 講座 (同上) (明治三十九年勅令第百)
- 一 講座
- 一 講座 (明治三十四年勅令第百)
- 四 講座
- 三 講座

史學、地理學
哲學、哲學史
心理學、倫理學、論理學
社會學
教育學
美學
言語學
梵語學
英語學、英文學
獨逸語學、獨逸文學
佛蘭西語學、佛蘭西文學
理科大學
數學
應用數學
星學
物理學
化學
動物學

- 三 講座 (明治三十九年勅令第百)
- 二 講座 (六十八號ヲ以テ改正)
- 二 講座
- 一 講座
- 一 講座
- 一 講座
- 一 講座
- 一 講座 (明治三十三年勅令第百)
- 一 講座 (八十七號ヲ以テ改正)
- 一 講座 (明治三十四年勅令第百)
- 一 講座 (三十六號ヲ以テ追加)
- 一 講座
- 一 講座
- 四 講座 (明治三十五年勅令第百)
- 一 講座
- 二 講座
- 二 講座
- 四 講座 (同上) (明治三十九年勅令第百)
- 四 講座 (同上) (六十八號ヲ以テ改正)
- 三 講座 (同上)

- 植物學 二講座 (明治二十八年勅令第
五十四號ヲ以テ改正)
- 地質學、古生物學、礦物學 三講座
- 地震學 一講座
- 人類學 一講座
- 農科大學
- 農學 二講座
- 農藝化學、化學 三講座 (明治三十九年勅令第
六十八號ヲ以テ改正)
- 林學 四講座 (明治三十三年勅令第
八十七號ヲ以テ改正)
- 植物學 一講座
- 植物病理學 一講座 (明治三十九年勅令第
六十八號ヲ以テ改正)
- 動物學、昆蟲學、養蠶學 二講座
- 園藝學 一講座
- 畜產學 一講座
- 農産製造學 一講座
- 森林利用學 一講座 (明治三十五年勅令第
百二十五號ヲ以テ追加)
- 地質學、土壤學 一講座 (明治三十三年勅令第
八十七號ヲ以テ追加)
- 農林物理學、氣象學 一講座
- 農政學、經濟學 一講座

家畜解剖學 一講座
 家畜生理學 一講座
 家畜內科學、家畜外科學 三講座

附 則

本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○京都帝國大學法科大學醫科大學文科大學及理工科大學講座ノ種類及其數

明治三十六年三月三十日
 勅令第百六十八號

京都帝國大學法科大學醫科大學文科大學及理工科大學ニ於ケル講座ノ種類及其數左ノ如シ (明治三
 十三年勅令第百三十五號ヲ以テ改正)

- 法科大學
- 憲法(一講座) 國法學(一講座) 民法(四講座) 商法、破産法(二講座) 民事訴訟法(一講座)
 - 刑法、刑事訴訟法(二講座) 經濟學(三講座) 財政學(一講座) 統計學(一講座) 政治學、政治
 - 史(一講座) (明治三十九年勅令第
八十九號ヲ以テ追加)
 - 行政法(一講座) 國際公法(一講座) 國際私法(一講座) 法制
 - 史(一講座) (明治四十年勅令第百
八十七號ヲ以テ追加)
 - 比較法制史(一講座)(上)
 - 法理學(一講座)

京都醫科大學

解剖學(三講座) (明治三十九年勅令第百) 生理學(一講座) 醫化學(一講座) 病理學、病理解剖學(二講座) 藥物學(一講座) 內科學(一講座) 婦人科學、產科學(一講座) 小兒科學(一講座) 外科學(二講座) 整形外科學(一講座) (明治三十九年勅令第百) 眼科學(一講座) 皮膚病學、微毒學(一講座) 精神病學(一講座) 衛生學(一講座)

福岡醫科大學

解剖學(二講座) 病理學(二講座) 生理學(一講座) 醫科學(一講座) 內科學(一講座) 小兒科學(一講座) 外科學(二講座) 皮膚病學、微毒學(一講座) 精神病學(一講座) 精神醫學(一講座) 衛生學(一講座) (明治三十九年勅令第百) 眼科學(一講座) 法醫學(一講座) (明治三十九年勅令第百) 衛生學(一講座) (明治三十六年勅令第百三十六號同三) 文科大學 (明治三十九年勅令第百)

國史學(一講座) (明治四十年勅令第百) 史學、地理學(二講座) (同) 東洋史學(一講座) (上) 哲學(二講座) (二講座) 心理學(一講座) 宗教學(一講座) (明治四十年勅令第百) 社會學(一講座) (上) 教育學、教授法(一講座) 倫理學(一講座) 支那語學、支那文學(一講座) 西洋文學(一講座) (明治四十年勅令第百) 理工科大學

數學(三講座) (明治三十九年勅令第百) 物理學(四講座) 化學(五講座) 土木工學(四講座) 機械工學(五講座) 電氣工學(三講座) 探礦學(二講座) 冶金學(三講座) (明治三十九年勅令第百)

材料強弱學(一講座) 構造強弱學(一講座)

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第百十九號及同三十二年勅令第百二十一號ハ之ヲ廢止ス

○學術研究上必要ノ埋藏物ヲ發見シタルトキ東京帝國大學へ通知

並其保管轉換方

明治三十二年十月二十六日
內務大臣訓令

應 府 縣 長 官

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ヲ發見シタルトキハ其ノ品質形狀發掘ノ年月日場所及口碑等徵證トナルヘキ事項ヲ詳記シ模寫圖ヲ添ヘ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ通知スヘシ

- 一 古墳關係品其ノ他學術技藝若ハ考古ノ資料トナルヘキモノハ 宮 内 省
- 一 石器時代遺物ハ 東京帝國大學

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ前項埋藏物送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ徵シ物件ノ毀損セザル様装置シテ之ヲ送付スヘシ運送ニ關スル費用ハ警察費ヲ以テ支辨シ宮内省又ハ東京帝國大學ニ要求スヘシ

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要アル旨通知ヲ受ケタル埋藏物ニシテ公告後法定ノ期間ヲ經過シ所有者發見セズ所有權國庫ニ歸屬シタルトキハ其ノ宮内省ニ係ルモノハ相當代價ヲ以テ同省ニ讓渡シ東京帝國大學ニ係ルモノハ同學ニ保管轉換ノ手續ヲ爲シ當省ヘ報告スヘシ
宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要ナキ旨通知ヲ受ケタル埋藏物ハ學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ物件ノ取扱ヲ爲サス法定期間經過後發見者ニ交付スル等便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

○東北帝國大學農科大學講座種類及其數

明治四十年六月二十一日
勅令第二百四十號

東北帝國大學農科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

農學(二講座) 農藝化學(二講座) 農藝物理學(一講座) 植物學(一講座) 動物學、昆

蟲學、養蠶學(三講座)

園藝學(一講座) 畜産學(一講座) 農政學、殖民學(一講座)

附 則

本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官 制

○東京帝國大學官制

明治三十年六月十八日
勅令第二百十號

第一條 東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總 長

書記官

學生監(明治三十六年勅令第二
百二十八號ヲ以テ改正)

書 記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス(明治三十四年勅令第
百十四號ヲ以テ改正)

第四條 學生監ハ專任一人奏任トス(明治四十年勅令第二
百三十號ヲ以テ改正)

學生監ハ總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル(明治三十六年勅令第二
百二十八號ヲ以テ改正)

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十人ヲ以テ定員トス(明治三十一年勅令第百七十一號同
第三十九年同第三十九號ヲ以テ改正)

第六條 各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教 授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任百卅四人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス(明治四十年勅令第三)

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任七十四人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス(同上)

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニア

ラス(明治三十一年勅令第二)

第九條 助手ハ專任百四十七人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス(同上)

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス(明治三十一年勅令第百)

第十二條 理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十三條 理科大學附屬臨海實驗所ニ臨海實驗所長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ

補ス

臨海實驗所長ハ總長監督ノ下ニ於テ臨海實驗所ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十四條 理科大學附屬植物園ニ植物園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十五條 農科大學附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十六條 農科大學附屬農場ニ農場長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス(明治

九年勅令第三十

九號ヲ以テ改正)

農場長ハ總長監督ノ下ニ於テ農場ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十七條 農科大學附屬農業教員養成所ニ農業教員養成所主事ヲ置キ農科大學教授助教授ヨ

リ文部大臣之ヲ補ス(明治三十五年勅令第九十六年同三)

農業教員養成所主事ハ農科大學長監督ノ下ニ於テ農業教員養成所ノ事務ヲ掌理ス(同上)

第十八條 東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス(同上)

附 則

第十七條 明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(備考) 明治三十三年勅令第六十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

明治三十五年勅令第九十六號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

明治三十九年勅令第三十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

○京都帝國大學官制

明治三十年六月十八日 勅令第二百一十一號

第一條 京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

學生監 (明治三十六年勅令第二
百二十九號ヲ以テ改正)

書記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス (明治三十六年勅令第一
百五十五號ヲ以テ追加)

第四條 學生監ハ專任一人奏任トス (明治四十年勅令第二
百三十一號ヲ以テ改正)

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任九十八人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス (明治四十年勅令第二
百三十一號ヲ以テ改正)

第八條 助教授ハ專任五十六人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス (明治三十九年勅令第
四十四號ヲ以テ改正)

第九條 助手ハ專任百二十六人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス (明治四十年勅令第二
百三十一號ヲ以テ改正)

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

第十二條 醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條 京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス
館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事ヲ掌理ス

(備考) 明治三十三年勅令第七十號ニテ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

同 三十六年勅令第五十五號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

同 三十九年勅令第四十號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

○東北帝國大學農科大學官制

明治四十年六月二十一日
勅令第二百三十七號

第一條 東北帝國大學農科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

學長

教授

助教

學生監

助手

書記

第二條 學長ハ教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學長ハ文部大臣ノ監督ヲ承ケ農科大學ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教授ハ專任十二人奏任又ハ勅任トス講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其研究ヲ指導ス

教授ニシテ學長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第四條 助教ハ專任八人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但講座ヲ分擔スル助教ハ此限ニ在ラス

第五條 學生監ハ一人教授又ハ助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學生監ハ學長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スルコトヲ掌ル

第六條 助手ハ專任十五人判任トス教授及助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第七條 書記ハ專任十人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 第一條職員ノ外植物園長、農場長及演習林長ヲ置キ教授又ハ助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長、農場長及演習林長ハ學長ノ監督ヲ承ケ各其事務ヲ掌理ス

第九條 農科大學ニ大學豫科、土木工程科、林學科及水産學科ヲ附屬セシメ教授專任十六人助教

授專任七人ヲ置ク

教授ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

附 則

本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(東京帝國大學文科大學ニ史料編纂官設置)
(東京帝國大學ニ於テ度量衡副原器保管方)

○東京帝國大學文科大學ニ史料編纂官設置

明治三十八年三月廿八日
勅令第九十五號

第一條 大日本史料、大日本古文書及之ニ附隨スル書類ノ編纂ヲ爲サシムル爲東京帝國大學文科大學ニ左ノ職員ヲ置ク

史料編纂官 專任五人(奏任内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得)

史料編纂官補 專任十人判任

史料編纂書記 專任三人判任

第二條 史料編纂官ハ高等官ニ等以下トシ其年俸ハ別表ニ依ル(別表略)

○東京帝國大學ニ於テ度量衡副原器保管方

明治二十五年三月二十六日
文部大臣訓令

帝國大學

明治二十四年三月法律第三號度量衡器法第六條ニ依リ本大臣ニ於テ保管スヘキ副原器ノ保管ノ事ヲ掌ラシム

◎學生生徒

○大學豫科學力檢定規程

明治二十六年六月十四日
文部大臣訓令

高等學校

高等學校ノ卒業生ニアラスシテ帝國大學分科大學へ入學志願ノ者アルトキハ別紙規程ニ依リ大學豫科學力試験ヲ施行スヘシ

(別紙)

大學豫科學力檢定規程

第一 大學豫科學力檢定試験ハ帝國大學分科大學ヨリ其入學志願者ノ學力檢定試験執行ノ通告アル場合ニ限リ高等學校ニ於テ施行スルモノトス

第二 大學豫科學力檢定試験ハ高等學校大學豫科卒業ノ程度ニ據ル

但官立府縣立中學校又ハ之ト同等ト認ムヘキ公私立中學校ノ卒業證書ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校ノ學力檢定試験ヲ行フモノトス

第三 大學豫科學力檢定試験ハ毎年七月又ハ九月ニ於テ一回之ヲ施行ス

第四 大學豫科學力檢定試験ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ
但既納ノ受験料ハ受験者ノ都合ニ依リ試験ヲ受ケサルコトアルモ返付セス

第五 試験合格者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スヘシ

證明書

府縣族籍

何 某

何年何月生

校 印

右ハ當校試験ノ成績ニ依リ大學豫科何部ノ學科ト同等ノ學力アルコトヲ證明ス

年 月 日

某高等學校長位勳學位姓名印

番 號

第五編 師範學校

●總 則

○師範教育令

明治三十年十月六日
勅令第三百四十六號

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ德性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
- 第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス
- 第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
- 第四條 師範學校ノ經費(北海道及沖繩縣ヲ除ク)ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十年文部省令第二十二號ヲ以テ)
(女子高等師範學校生徒募集規則公布)
- 第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ

學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得(明治三十年文部省令第二十號ヲ以テ私費生規則公布)

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十年文部省令第二十四號ヲ以テ女子高等師範學校規程改正公布)

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附 則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

○師範學校規程

明治四十年四月十七日 文部省令第十二號

師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一章 生徒教養ノ要旨

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二節 教授日數及式日

第三節 編制

第四節 教科用圖書

第五節 入學退學及懲戒

第六節 學費

第七節 卒業後ノ服務

第三章 講習科

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第五章 設備

第六章 設置及廢止

第七章 補則

第八章 附則

第一章 生徒教養ノ要旨

第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

一 忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス

二 精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス

- 三 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメントヲ要ス
 - 四 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校令及小學校令施行規則ノ旨趣ニ副ハントヲ旨トスヘシ
 - 五 教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法ヲ會得セシメントヲ務ムヘシ
 - 六 學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技藝ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメントヲ務ムヘシ
- 第二章 豫備科及本科
- 第一節 學科及其ノ程度
- 第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得
 - 第三條 豫備科ハ本科第一部ニ入學セントスル者ニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
 - 第四條 豫備科ノ修業年限ハ一箇年トス
 - 本科第一部ノ業修年限ハ四箇年トス
 - 本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一箇年、女生徒ニ就キテハ二箇年又ハ一箇年トス
 - 第五條 豫備科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、數學、習字、圖畫、音樂、體操トシ女生徒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
 - 第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、

- 數學、博物、物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ英語ハ隨意科目トス
- 前項學科目ノ外農業、商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フ其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ一科目ヲ學習セシムヘシ
- 第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス
- 前項學科目ノ外隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得
- 第八條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨シ師表タルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
- 修身ハ初ハ嘉言善行等ヲ徵シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍ニ秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ倫理學ノ一班教授法ヲ授クヘシ
- 前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ
- 第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育制度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得セシメ知識増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
英語ハ發音、綴字、讀方、譯解、書取、會話、作文、習字及文法ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第十二條 歴史ハ歷史上重要ナル事歴ヲ知ラシメ社會ノ變遷邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ且小學校ニ於ケル日本歴史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著明ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授ケヘシ
第十三條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理解セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ世界地理ノ概略及日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又人文ノ概説ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第十四條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ生活上必要ナル知識ヲ與ヘ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
數學ハ算術代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ
前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケヘシ

第十五條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
博物ハ重要ナル植物、動物礦物ニ關スル一般ノ知識標本ノ採集調製法並ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授ケヘシ

第十六條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授ケヘシ

第十七條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス
法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授ケヘシ

第十八條 家事ハ家事整理ニ必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密清潔ヲ尙ブノ念

ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、家計簿記其ノ他一家ノ整理經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ
第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ク且教授法ヲ授クヘシ

第二十條 習字ハ文字ヲ端正且敏速ニ書寫スルノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ運筆ノ方法ヲ授ク楷書、行書ヲ主トシ草書及假名ニ及ホシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ授ク黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ又幾何畫ヲ授ク且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ工作ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ天然物ハ模造、日用器具ノ製作等諸種ノ細工ヲ授ク又材料ノ性質、工具ノ保存法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル唱歌教授ノ方法ヲ會得セシメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ質スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、複音唱歌及樂器使用方法ヲ授ク且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏耐久ナラシメ又精神ヲ快活剛毅ナラシメ且小學校ニ於ケル體操ノ教授ニ必要ナル知識技能ヲ得シメ其ノ教授方法ヲ會得セシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ男生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲、兵式體操トシ且教授法ヲ授ク女生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

第二十五條 農業ハ農業ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル農業教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ農業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、森林、養蠶、養畜、農産製造、農業經濟等ニ關スル事項ヲ授ク且教授法ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リ水産ニ關スル事項ヲ加ヘ授クヘシ

第二十六條 商業ハ商業ニ關スル知識ヲ得シメ且小學校ニ於ケル商業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

商業ハ商事要項、商業簿記、商業算術、商業地理及其ノ地方ニ於ケル重要ナル商品ノ大要ヲ授ク且教授法ヲ授クヘシ

第二十七條 豫備科及本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、

女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ルヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ニ變更スルコトヲ得

第二十八條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學法制及經濟、圖畫、手工、音樂體操トス

法制及經濟ハ中學校ニ於テ學習シタル生徒ニテハ之ヲ缺クコトヲ得

第二十九條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ歷史、地理ヲ加フ又隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第三十條 修身ハ第八條ニ準シ道德ノ要領ヲ教示シ又小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル智識並ニ作法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

甲號表

學科及學年	豫備科				本科			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
國語及漢文	一〇	六	四	三	二	二	三	二
修身	二	二	一	一	二	二	一	一
教育				四				一
國語及漢文								二

教育三
實習九
一一二

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
英語	三	三	三	二
歷史	二	二	二	二
地理	二	二	一	
數學	四	三	三	二
博物	三	二	一	
物理及化學		二	三	四
法制及經濟				二
習字	三	二	一	
圖畫	二	三	三	三
手工		三		三
音樂	二	二	二	一
體操	六	五	五	三
農業又ハ商業			二	二

乙號表

學科目	學科及學年	豫備科	本科			
			第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身		二	二	一	一	二
教育				二	四	二
國語及漢文		九	六	四	三	二
歷史			二	二	二	二
地理			二	二	一	二
數學		五	三	三	二	二
博物			二	二	一	二
物理及化學				二	二	四
家事					二	二
計		三一	三四	三四	三四	三四

計	英 語	體 操	音 樂	手 工	圖 畫	習 字	裁 縫
三一		四	二	二	三	四	
三一					二	四	
(三四)	(三)	三	二	三	二	四	
三一					一	四	
(三四)	(三)	三	二	三	一	四	
三九						四	
(三四)	(三)	三	二	三	一	四	
三一						三	
(三四)	(二)	二	一	二		三	

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ

第三十一條 教育ハ第九條ニ準シ且修業年限一箇年ノ學科ヲ修ムル生徒ニ就キテハ歴史、地理ノ教授法ヲ授クヘシ

第三十二條 國語及漢文ハ第十條ニ準シ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十三條 歴史、地理ハ第十二條及第十三條ニ準シ既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授ク

第三十四條 數學ハ第十四條ニ準シ算術ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ
 前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ便宜代數、幾何ヲ授クヘシ
 第三十五條 博物ハ第十五條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ標本ノ採
 集調製法ヲ授ケ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ
 第三十六條 物理及化學ハ第十六條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ又
 既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ
 第三十七條 裁縫ハ第十九條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ
 第三十八條 圖畫ハ第二十一條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ又黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サ
 シメ且教授法ヲ授クヘシ
 第三十九條 英語、法制及經濟、手工、音樂、體操ハ第十一條、第十七條、第二十二條乃至第二
 十四條ニ準シ之ヲ授クヘシ
 第四十條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ
 就キテハ修業年限ニ依リ乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ學校長ハ第二十七條但書ニ準シ之ヲ
 變更スルコトヲ得

甲號表

學科目	學年	第一學年	學科目	學年	第一學年

乙號表

修身	二	法制及經濟	二
教育	一五	圖畫	三
國語及漢文	二	手工	三
數學	二	音樂	二
博物	三	體操	三
物理及化學	三	計	三四

學科目	學年	第一學年	第二學年	學科目	學年	第一學年	第二學年
修身		一	二	裁縫		三	三
教育		四	教育實習八三一	圖畫		三	二
國語及漢文		五	三	手工		三	二
歷史		二		音樂		二	一
地理		二		體操		三	三

數 學	四	三	英 語	(三)	(三)
博 物	二	三	計	三一 (三四)	三一 (三四)
物理及化學					

丙號表

學 科 目	第 一 學 年		第 一 學 年	
	學 年	學 科 目	學 年	學 科 目
修 身	二	裁 縫	二	
教 育	一三	圖 畫	三	
國語及漢文	三	手 工	三	
數 學	三	音 樂	二	
博 物	三	體 操	三	
物理及化學	三	計	三四	

第二節 教授日數及式日

第四十一條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ許

可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第四十二條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ地方長官ニ於テ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第四十三條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三節 編 制

第四十四條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ凡四十人以下トス

第四十五條 修身、裁縫、音樂、體操ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
英語、法制及經濟、農業、商業ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ前條第二項ノ制限ヲ超エサル場合ニ限リ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四十六條 教員ノ數ハ四學級ノ學校ニ於テハ十一人以上トシ四學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル學校ニ於テハ本文ニ依ル員數ヨリ一人ヲ減ス

農業、商業ノ二科目ヲ加フル學校ニ於テハ本科第一部男生徒ノ學級數十二以下ナルトキハ教員一人、十三以上ナルトキハ同二人ノ割合ヲ以テ前項ノ員數ヲ増スヘシ

第四節 教科用圖書

第四十七條 豫備科及本科ノ教科用圖書ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル必要アリト認めタル時ハ地方長官ハ其ノ意見ヲ文部大臣ニ申出ツヘシ此場合ニ於テハ地方長官ハ學校長ノ意見ヲ聞クイヲ要ス

第五節 入學、退學及懲戒

第四十八條 豫備科及本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ第四十九條乃至第五十一條ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十九條 豫備科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫備科ヲ修了シタル者又ハ修業年限三箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齢十五年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十一條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ修業年限ヲ二箇年トナシタル場合ニ於テハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限五箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十二條 生徒ニ缺員アルトキハ、身體健全、品行方正ニシテ學力及年齡當該學級ニ相當スル者ヲ補缺スルコトヲ得

第五十三條 入學志願者ノ檢定ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五十四條 必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ豫備科ヲ修了シタル者以外ノ入學者ニ對シ四

箇月以内ノ期間ニ於テ假入學ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十六條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認めタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ不適當ト認めタル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第五十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條 學校長ハ教育上必要ト認めタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第六節 學 資

第五十九條 公費生ノ員數之ニ支給スヘキ學資及其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

第六十條 懲戒ニ因リ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニ對シテハ地方長官ハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學資私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

前項授業費ノ金額ハ年額參拾圓以下ニ於テ地方官長之ヲ定ムヘシ

第七節 卒業後ノ服務

第六十一條 本科卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事シ尙特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ他ノ道府縣臺灣又ハ樺太ニ於テ就職スルコトヲ得

- 一 第一部公費男子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年
 - 二 第一部公費女子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年
 - 三 第一部私費卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
 - 四 第二部卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年
- 第六十二條 本科公費卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ従事スル義務ヲ有ス
- 一 第一部男子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
 - 二 第一部女子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年
 - 三 第二部卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年
- 第六十三條 學資ノ支給額ニ差等ヲ設ケタル場合ニ於テ本科第一部公費卒業者ニシテ最多額ノ支給ヲ受サル者ニ就キテハ第六十一條ノ期間ヲ男子五箇年、女子三箇年トス
- 第六十四條 特別ノ事情アル時ハ前三條ノ期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ本邦兒童ノ爲外國ニ於テ小學校令ノ旨趣ニ準シテ設立セル公立又ハ之ニ準スヘキ學校教員ノ職ニ従事スルコトヲ得
- 前項ノ服務ハ第六十一條及第六十二條ノ服務ト同視ス
- 第六十五條 服務期間内ニ於テ教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスル者アルトキハ地方長官之ヲ許可スルコトヲ得
- 前項ノ學校ニ入學シタル場合ニ於テハ在學中第六十一條及第六十二條ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス其

- ノ卒業シタル場合ニ於テ當該學校ニ關スル法令ノ規定ニ依リ卒業後服務義務ヲ有スルトキハ第六十一條及第六十二條ノ義務ハ之ヲ免除ス
- 第六十六條 本科卒業者ニシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡クスコト能ハサル事由ヲ生ジタル者又ハ外國政府ノ招聘ニ應シ教員ノ職ニ従事セントスル者アルトキハ地方長官ハ必要ト認ムル期間内ノ義務ヲ免除スルコトヲ得
- 第六十七條 本科卒業者ニシテ服務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ地方長官ハ公費卒業者ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學資、私費卒業者ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得
- 一 正當ノ事由ナクシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡サ、ルトキ
 - 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
 - 三 小學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 前條前段ノ事由ニ因リ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ
- 第六十八條 前條授業費ノ金額ハ年額參拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ
- 第三章 講習科
- 第六十九條 小學校教員講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス 特別ノ必要アルトキハ尋常小學校教員タラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲ス爲メ小學校教員講習會ヲ設クルコトヲ得
- 第七十條 尋常小學校准教員タラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體

健全、品行方正ニシテ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノトシ其ノ講習期間ハ一箇年以上トス

尋常小學校本科正教員タラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ尋常小學校准教員免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ二箇年以上トス

第七十一條 幼稚園保母講習科ハ保母タラントスル者又ハ保母タルヘキ資格ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

第七十二條 講習期間一箇年以上ノ講習科ヲ置キタルトキハ一學級毎ニ一人以上ノ割合ヲ以テ第四十六條ノ教員定數ヲ増スヘシ

第七十三條 講習科ニ關シ必要ナル規定ハ地方長官之ヲ定ム

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第七十四條 師範學校ニハ附屬小學校ヲ設クヘシ

女生徒ヲ置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設クヘシ特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ市町村立小學校ヲ以テ附屬小學校ニ代用シ又ハ市町村立若ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ附屬幼稚園ニ代用スルコトヲ得

第七十五條 附屬小學校及附屬幼稚園ニハ小學校令第一條乃至第三條、第十八條乃至第二十七條第三十七條、第三十八條、第四十七條、小學校令施行規則第一條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十五條第一項及第四項第三十七條、第三十八條、第四十二條乃至第五十三

條、第五十六條、第九十五條乃至二百二條、第二百六條、第二百七條ヲ準用ス但シ小學校令

第二十三條、第二十七條第三項、小學校令施行規則第十八條ノ二、第十九條、第三十一條第四項、第四十四條、第四十六條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第七十六條 附屬小學校ニ於テハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スヘシ

第七十七條 附屬小學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、數學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル師範學校ニ於テ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級ヲ設ケサルコトヲ得

第七十八條 附屬小學校ニ於テハ二部教授ヲ行フヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十九條 附屬小學校ノ教員ハ小學校ノ正教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第八十條 附屬小學校ノ授業料及附屬幼稚園ノ保育料ニ關スル規定ハ地方長官之ヲ定ム

第五章 設 備

第八十一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

前項ノ外農業ヲ加ヘタル學校ニ於テハ農業實習地ヲ備フヘシ

第八十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道德上竝ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第八十三條 校舍ハ教授上、管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルヘシ

第八十四條 體操場ハ屋内體操場及屋外體操場トス

第八十五條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第八十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ
第八十七條 校舍、寄宿舎及屋内體操場ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ヘシ

第六章 設置及廢止

第八十八條 師範學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十九條 前條ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具申スヘシ

一 名稱

二 位置

三 學科

四 生徒及兒童ノ定員、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ幼兒ノ定員

五 學級ノ編制、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ組ノ編制

六 開校年月

七 經費

前項第一號、第二號、第六號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第三號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關シテハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第七章 補則

第九十條 地方長官ハ師範學校學則ヲ定メ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルト

キ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程及教授時數ニ關スル事項
- 三 生徒ノ學業成績ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項
- 五 學資及授業費ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 七 生徒ノ取締ニ關スル事項
- 八 講習科ニ關スル事項
- 九 附屬小學校及附屬幼稚園ニ關スル事項
- 十 其他必要ナル事項

第八章 附則

第九十一條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九十二條 従前ノ規定ニ依ル本科ハ本令施行ノ日ヨリ當然本科第一部ニ變更セラレタルモノト看做ス

第九十三條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル女生徒ノ修業年限ハ仍従前ノ規定ニ依ル

但シ本令ニ依ルコトヲ妨ケス

第九十四條 第六條及第二十八條ノ學科目中法制及經濟ハ當分ノヲ缺クコトヲ得

第八條第三項及第三十條第二項ニ規定シタル現行法制上ノ事項ノ大要ハ當分ノヲ授ケサルコトヲ得

法制及經濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第九十五條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ヲ斟酌シ又之ニ依ルコトヲ得

第九十六條 本令施行ノ際現ニ簡易科ニ在學スル生徒ニ就テハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十七條 簡易科卒業者ノ服務義務ニ關シテハ第二章第七節ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ服務期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十八條 本令施行前師範學校ヲ卒業シタルモノニ對シテハ授業費償還ニ關スル規定ヲ準用セ

第九十九條 明治二十四年文部省令第二十六號、明治二十五年文部省令第八號、同第十號乃至第十二號同第十五號、明治二十六年文部省令第十四號、明治三十年文部省令第十九號、同第二十一號及明治三十一年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

○師範學校規程制定ノ要旨及其施行上注意事項

明治四十年四月十七日 文部省訓令第六號

北海道廳 府縣

近年我國教育ノ進歩ニ伴ヒ師範學校ノ現行規定中改正ノ必要ヲ感スルモノ尠ナカラズ殊ニ今回義務教育ノ年限延長セラレタルニ際シ適良ナル教員ノ養成ヲ要スルコト益々切ナルニ至レリ是レ師範學校ニ關スル從來單行ノ諸規定ヲ編括シテ新ニ師範學校規程ヲ制定セル所以ナリ今左ニ其ノ改正ノ要旨ト施行上注意スヘキ事項ノ一斑トヲ舉示スル所アルヘシ

師範學校ノ學科ニ就キテハ本科ヲ第一部及第二部ニ分チ從來ノ簡易科ハ之ヲ廢止スルコト、セリ而シテ第一部ニ於テハ女生徒ノ修業年限ヲ男生徒ト同シク四ケ年トシ又豫備科ノ修業年限ヲ一ケ年ト定メタリ蓋シ從來本科卒業者ニ與ヘタル小學校教員ノ資格ハ男女ニヨリテ差異ナキニ拘ハラ

ス其ノ修業年限ヲ異ニセルハ女子教員ノ發達尙壺稚ナリシ時代ニ於テ寔ニ止ムコトヲ得サルニ出

テタルモノナリト雖今ヤ其ノ進歩發達著シク且教職ノ女子ニ待ツモノ漸ク切ナラントスルノ形勢

ニ徴シ優良ナル女教員養成ノ必要ヲ認メタルヲ以テ本規定ニ於テハ男女共ニ其ノ修業年限ヲ同一

ナラシメタリ又第二部ニ於テハ主トシテ中學校又ハ高等女學校ノ卒業者ヲ入學セシメ之ニ一ケ年

若ハ二ケ年必要ナル教育ヲ施シ以テ第一部ニ於ケルト同等ノ成績ヲ舉ケシメンコトヲ期セリ從來

此等ノ學校卒業者ニシテ小學校ニ教員タル者尠ナカラズト雖教授訓練ニ關スル知識技能未タ十分

ナラサルモノアリ近年地方ニヨリテハ短期ノ講習科ヲ設クルモノナキニアラス而モ其ノ期間、學

科目、教授時數ノ如キ、正教員養成ノ機關トシテハ頗ル不完全タルヲ免レス是レ今回一定ノ課程

ノ下ニ新ニ第二部ヲ設ケ正教員養成ノ途ヲ開キタル所以ナリ然レトモ正教員ノ不足ハ一朝一夕ニ之ヲ補充シ得ヘキニアラサルカ故ニ第二部ヲ設置スルカ爲ニ第一部ノ縮少ヲ計ルカ如キハ本規程ヲ設ケタル旨趣ニ副ハサルモノトス而シテ若シ第二部ニ於テ毎年一學級ヲ編成スルニ足ルヘキ生徒數ヲ得難キトキハ男女生徒ノ各學級ヲ隔年交互ニ設ケ又ハ講習課ト交互ニ之ヲ設ケル等便宜ノ方法ニヨリ苟モ中學校又ハ高等女學校ノ卒業者ニシテ小學校教員タラントスルモノハ成ルヘク遺漏ナク之ヲ收容シテ以テ第二部ヲ設ケヘキナリ

高等小學校卒業者ヲシテ直ニ師範學校ニ進入スルコトヲ得シムルハ學校ノ系統上適當ノコトナルノミナラス一面ニハ優秀ナル生徒ヲ得シカ爲メニ最有功ノ方法タリ是レ今同本科第一部ノ入學資格中ニ修業年限三箇年ノ高等小學校卒業者ヲ加ヘ又豫備科ノ修業年限學科程度等ヲ一定シテ高等小學校第二學年修了者トノ連絡ヲ計リタル所以ナリ而シテ修業年限三箇年ノ高等小學校ハ當分其ノ數尙多カラサルヘキヲ以テ地方長官ハ成ルヘク豫備科ノ施設ヲ企圖センコトヲ望ム

小學校教員講習科ハ現ニ小學校教員タル資格ヲ有スル者ニ必要ナル補習ヲ爲サシムルヲ以テ本體トシ特別ノ必要アルトキハ尋常小學校教員養成ノ爲ニ之ヲ設ケルコトヲ得ルコトトシ且其ノ講習期間ニ關スル制限ヲ定メタリ今ヤ小學校令ノ改正ニヨリ從來尋常小學校教員ノ資格ヲ有スル者ト雖將來ノ尋常小學校ノ教員トシテハ學力ノ不足ヲ免カレサルニ至ルヘキカ故ニ此等教員ノ爲特ニ講習科ヲ設ケ學力ノ補習ヲ計ルコトハ今日ノ最モ急務トスル所ナリ

學科目ニ就キテハ社會ノ趨勢ト從來ノ經驗トニ徴シテ本科第一部ノ男生徒ニ對シ新ニ法制及經濟ヲ加ヘ又男女生徒ヲ問ハス手工ヲ必修セシムルコトトシ英語ハ男生徒ニ對シテハ必設科目トシ女

生徒ニ對シテハ之レヲ加設スルコトヲ得シメ共ニ隨意科目トナセリ而シテ法制及經濟ハ當分ノ内之ヲ缺クコトヲ得シメ尙其ノ實施ニ就キテハ準備ヲ要スルモノアリ他日更ニ訓示スル所アラントス又英語ハ元來學習ニ困難ナル學科目ナルヲ以テ學力ニ餘裕アル者又ハ語學ノ材幹アル者ノ之ヲ修ムルハ固ヨリ妨ナシト雖徒ニ世ノ流行ニ倣ヒテ之ヲ學習スルカ如キハ深ク戒ムヘキコトニシテ學校職員ヲシテ指揮其ノ方ヲ誤ラシメサランコトヲ要ス

本科第二部ハ高等普通教育ヲ終レルモノニ對シテ短期ノ師範教育ヲ施シ以テ教員タルニ適セシメントスルモノナレハ此旨趣ニ基キ其ノ學科目及程度ヲ配當規定セリ故ニ之ヲ授クルニハ主トシテ既得ノ知識技能ニ基キテ之ヲ統合補習セシメ殊ニ小學校ニ於ケル教職ニ關シ必要ナル事項ヲ習得セシムルコトニ注意セサルヘカラサルナリ

師範學校ニ於テハ生徒ニ學資ヲ支給スルハ其ノ本則トスル所ナレトモ地方ニヨリ入學志望者ノ多少、生活程度ノ高低等固ヨリ同一ナラサルカ故ニ全國劃一ノ制ニ依ルコトヲ要セサルノミナラス現今ノ狀況ニ就キテ之ヲ考フルトキハ學資ノ金額ニ差等ヲ設ケテ必要ニ應シ適度ニ之ヲ支給シ而シテ其ノ節約シ得タル所ハ以テ女生徒ノ修業年限延長等ニ要スヘキ經費ヲ補ヒ又ハ生徒ノ員數ヲ增加スル等他ノ需要ニ充テンカ爲學資ノ種類金額ハ之ヲ地方長官ノ適當ナル措置ニ一任セリ又從來ノ經驗ニ徴スルニ卒業生ノ服務年限ハ長キニ失スルノ嫌ナキニアラザルヲ以テ本規程ニ於テハ其ノ年限ヲ減縮シタリ

附屬小學校及附屬幼稚園ニ就キテハ特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校及幼稚園又ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ代用スルコトヲ許セリ是レ將來師範學校ノ増設又ハ生徒ノ増加ニ伴ヒ附屬小學校又ハ

附屬幼稚園ヲ設置シ若ハ之ヲ擴張スルノ必要アルニ際シ土地ノ情況地方經濟ノ緩急ニヨリ便宜ノ施設ヲ爲スコトヲ得シメ教育及保育ノ實習上支障ナカラシメンカ爲ナリ又附屬小學校ニ於テハ規程ニ示セル學級ノ外成ルヘク盲人、聾人、又ハ心身ノ發育不完全ナル兒童ヲ教育センカ爲特別學級ヲ設ケ之カ教育ノ方法ヲ攻究センコトヲ希望ス蓋シ此ノ如キ施設ハ從來未タ多ク見サリシ所ナリト雖教育ノ進歩ト文化ノ發達トニ伴ヒ將來ニ於テハ其ノ必要アルヲ認ムルヲ以テナリ

要スルニ今回改正ノ要旨ハ小學教育ノ發達ニ伴ヒ其ノ源泉タル師範教育ノ内容ヲ改善シ一層優良ナル小學校長及教員ヲ得兼テ其ノ不足ヲ補充スルニ足ルヘキ人員ヲ養成セシメントスルニ外ナラス而シテ諸般ノ施設ニ關シ教育上障害ナキ範圍内ニ於テ節約利用ノ方法ヲ講シ以テ多數ノ生徒ヲ養成セン事ヲ最希望ニ堪ヘサルナリ即チ土地ノ情況ニ應シ私費生及女生徒ノ員數ヲ適度ニ増加スル事教育ニ妨ナキ限ニ於テ校舍ノ利用度數ヲ増加シ教員勤務ノ繁閑ヲ考ヘ便宜晝夜二部ノ教授ヲ獎勵スル事又ハ生徒收容上ノ必要ニヨリテハ一部ノ生徒ヲ外宿セシムル途ヲ講スル等ノ如キ孰モ此ノ目的ヲ達スルニ於テ便宜ノ方法クラスンハ非ス而シテ制度ノ改善ハ未タ必シモ直ニ教育ノ改善ヲ意味セズ地方長官ハ宜ク學校職員ヲ督勵シ以テ本規程改正ノ旨趣ヲ貫徹セシメン事ヲ期スヘシ

◎教 則

○愛媛縣師範學校小學校教員講習科學則

明治四十一年二月十四日
愛媛縣令第十六號

愛媛縣師範學校小學校教員講習科學則左ノ通定メ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

愛媛縣師範學校小學校教員講習科學則

- 第一條 小學校教員講習科ヲ左ノ二種トス
 - 甲種 小學校教員ニ必要ナル講習ヲナスモノ
 - 乙種 尋常小學校本科正教員ヲ養成スルモノ
- 第二條 講習科ノ人員ハ一學級凡四十人トシ其ノ學級數ハ時宜ニ依リ之ヲ定ム
- 第三條 講習科ノ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操、農業トシ其ノ中ニ就キ一科若ハ數科ヲ講習スルモノトス
- 第四條 講習科ノ學級數、期間、學科目及其ノ程度、每週講習時間等ノ講習科ノ種類ニ應シテ學校長之ヲ定メ豫メ知事ニ開申スヘシ
- 第五條 甲種講習生ハ現ニ小學校ニ在職スル者ニシテ郡市長ノ薦舉ニ係ル者ニ就キ學校長之ヲ選定ス
- 甲種講習生タラント欲スル者ハ附錄甲號書式ノ薦舉願書ニ履歷書ヲ添ヘ在職學校管理者ヲ經テ之ヲ郡(市)長ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ學校管理者ハ相當ノ意見ヲ附スルヲ要ス
- 第六條 乙種講習生ハ身體健全品行方正ニシテ尋常小學校准教員免許狀ヲ有スル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ郡(市)長ノ薦舉ニ係ルモノニ就キ學校長之ヲ選定ス
- 乙種講習生タラント欲スル者ハ附錄甲號書式ノ薦舉願書ニ履歷書、身體檢查書、戶籍謄本ヲ添ヘ現任市町村長ヲ經テ郡(市)長ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長ノ相當ノ意見ヲ附スルヲ要ス

第七條 郡(市)長ハ前二條ニ依ル管内志願者ヲ詮衡シ適當ト認ムル者ヲ選定シ附録乙號書式ニ依リ薦舉スヘシ

第八條 乙種講習ヲ許サレタル者ハ二週間以内ニ附録丙號書式ノ誓約書ヲ作り左ノ資格アル保証人一名連署ノ上保証人本籍ノ市町村長ヲ經テ差出スヘシ但シ學校ヨリ一里以外ノ地ニ居住スル保証人ハ不時急遽ノ用ニ應スル爲メ學校ヨリ一里以内ニ居住セル獨立ノ男子ヲ以テ代理人ト定メ双方連署ノ上届出ツヘシ

- 一、品行方正ナル丁年以上ノ戸主ニシテ本縣内ニ本籍居住ヲ定ムル者
- 二、直接國稅三圓以上ヲ納ムル者、但シ代理人ハ本資格ナキモノト雖妨ナシ

市町村長ハ保証人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第九條 講習生ニ於テ保証人又ハ其ノ代理人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ隨時更定セシムヘシ

第十條 講習生ハ總テ學校指定ノ所ニ寄宿セシム但シ時宜ニ依リ通學セシムルコトアルヘシ

第十一條 講習生ノ學資ハ講習科ノ種類ニ應シ經費豫算額以内ニ於テ之ヲ補給ス

市ハ知事、町村ハ郡長ノ許可ヲ受ケ往復旅費ニ限リ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 乙種講習生ニシテ講習中學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ講習修了後二ケ年間本縣内小學校ニ就職スヘキ義務ヲ有スルモノトス

第十三條 甲種講習生ニシテ講習中給料ヲ受ケタルモノハ修了後引續キ二ケ年間其ノ小學校ニ在職スヘキ義務ヲ有スルモノトス

第十四條 第十三條ニ依リ就職在職ノ義務ヲ有スル者事故アリテ義務ヲ盡ス能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ補給費用ノ全部若ハ其ノ幾部ヲ償還セシム但シ左ノ一項又ハ二項ニ該當スル者ハ講習中補給シタル費用ノ全部ヲ償還セシム

- 一、故ナク就職在職ノ義務ヲ盡サ、ル者
- 一、教員タルニ不都合ノ行爲アリ免職ニ處セラレタル者

前項ニ依リ償還ヲ命シタルモノハ納入告知書記載ノ期限内ニ之ヲ完納スヘキモノトス

第十五條 講習ヲ卒リタル者ハ既修ノ學術ヲ試験シ合格ノ者ニハ附録丁號又ハ戊號書式ノ修了證書ヲ授與ス

第十六條 講習生ニシテ左ノ一項若ハ數項ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

- 一、疾病ノ爲メ修業ニ堪ヘサル者
- 一、不都合ノ行爲アリタル者
- 一、成績不良ニシテ修了ノ見込ナキ者

第十七條 學資ノ補給ヲ受クル講習生ニシテ不都合ノ行爲ニ依リ退學ヲ命シタル者及自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ許可シタル者ハ講習中補給セシ學資ノ全部若ハ幾部ヲ三十日以内ニ償還セシムルモノトス(附録書式ハ次號ニ讓ル)

附録書式

甲 號 師範學校甲(乙)種講習科薦舉願 (用紙小判紙)

入學者 氏 名印
全上(寄留者ハ其住所ヲ併記ス)
保証人 氏 名印

校長 宛

前記保証人ハ當市町村内ニ居住セル獨立ノ男子ニシテ直接國稅參圓以上納付セル者ナリ

愛媛縣何郡(市)何町(村)長 氏 名 印

丁號

修了證書

講習科修了證書

愛媛縣華(士)族(平民)

學科 目

何

某

右者當校甲種講習科ニ於テ自明治年月日 年月日間前記學科目ニ就キ講習セシコトヲ證ス

明治年月日

愛媛縣師範學校長位勳爵 氏

名 印

第 號

戊 號

修了證書

講習科修了證書

愛媛縣華(士)族(平民)

學科 目

何

某

右者當校乙種講習科ニ於テ自明治年月日 何個年間前記學科目ニ就キ尋常小學校本科正教員ノ講習ヲ履修セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

明治年月日

愛媛縣師範學校長位勳爵 氏

名 印

第 號

○愛媛縣師範學校學則

明治四十一年二月十三日
愛媛縣令第十四號

愛媛縣師範學校學則左ノ通定ム

愛媛縣師範學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ニ男子本科第一部同第二部、女子本科第一部同第二部ヲ置ク但シ豫備科、小學校教

員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クニトアルヘシ、豫備科及講習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 生徒ノ定員ハ男子本科第一部ヲ三百二十人同第二部ヲ四十人女子本科第一部ヲ百六十人同第二部ヲ八十八トス

前項ノ定員内ニ於テ各學級二十名以内ノ私費生ヲ置ク

第三條 本科第一部ノ修業年限ハ四ケ年トス本科第二部男生徒ノ修業年限ハ一ケ年トス本科第二部女生徒ノ修業年限ハ二ケ年トス

第四條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史地理數學物理及化學法制及經濟習字圖書手工音樂體操農業トス但シ英語ハ隨意科目トス

本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身教育國語及漢文歷史地理數學博物物理及化學家事裁縫習字圖書手工音樂體操英語トス但シ英語ハ隨意科目トス

本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身教育國語及漢文數學博物物理及化學法制及經濟圖書手工音樂體操トス

本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身教育國語及漢文歷史地理數學博物物理及化學裁縫圖書手工音樂體操英語トス但シ英語ハ隨意科目トス

第五條 各學科目ノ每週教授時數ハ本科第一部ニ於ケル男生徒ニ就キテハ甲號表女生徒ニ就キテハ乙號表本科第二部ニ於テ男生徒ニ就キテハ丙號表女生徒ニ就キテハ丁號表ニ依ル但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セ

サル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルヲ得

甲號表

學科目	學科及學年			
	本	科	第	部
修身	二	一	一	一
教育		二	四	三
國語及漢文	六	四	三	二
英語	三	三	三	二
歷史	二	二	二	二
地理	二	二	一	
數學	四	三	三	二
博物	三	二	一	
物理及化學		二	三	四

乙號表

學科及學年	本 科 第 一 部											
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	計	農 業	體 操	音 樂	手 工	圖 書	習 字	法 制 及 經 濟
教 育	二	二	二	二	三							
修 身	一	一	一	一	四							
學 科 目	二	一	一	一	四	二	二	二	三	二	一	二
第一學年	二	一	一	一	四	二	二	二	三	二	一	二
第二學年	二	一	一	一	四	二	二	二	三	二	一	二
第三學年	二	一	一	一	四	二	二	二	三	二	一	二
第四學年	二	一	一	一	四	二	二	二	三	二	一	二
計	三	三	三	三	十二	二	五	二	三	二	一	二
農 業					二	二	二	二	二	二	一	二
體 操					五	五	五	五	五	五	五	五
音 樂					二	二	二	二	二	二	二	二
手 工					三	三	三	三	三	三	三	三
圖 書					二	二	二	二	二	二	二	二
習 字					一	一	一	一	一	一	一	一
法 制 及 經 濟					二	二	二	二	二	二	二	二

教育實習九(三)二二

學科及學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	計	農 業	體 操	音 樂	手 工	圖 書	習 字	裁 縫	家 事	物 理 及 化 學	博 物 學	數 學	地 理	歷 史	國 語 及 漢 文	
教 育	三	三	三	三	十二															
修 身	二	二	二	二	八															
學 科 目	二	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
第一學年	二	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
第二學年	二	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
第三學年	二	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
第四學年	二	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
計	三	三	三	三	十二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
農 業					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
體 操					五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	六
音 樂					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
手 工					三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	六
圖 書					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
習 字					一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
裁 縫					四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	六
家 事					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
物 理 及 化 學					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
博 物 學					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
數 學					三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	六
地 理					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
歷 史					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六
國 語 及 漢 文					四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	六

英語			
計	三三三(四)	三三三(四)	三三三(四)
	(三)	(三)	(二)

丙號表

學科目	學年		學科目	學年	
	第一學年	第二學年		第一學年	第二學年
修身			法制及經濟		
教育		教育實習八七 一五	圖畫		
國語及漢文			手工		
數學			音樂		
博物			體操		
物理及化學			計		
				三四	
修身	一	二	裁縫	三	三
第一學年					
第二學年					
第一學年					
第二學年					

丁號表

學科目	學年		學科目	學年	
	第一學年	第二學年		第一學年	第二學年
教育	四		圖畫	三	二
國語及漢文	五		手工		
歷史	二		音樂	二	一
地理	二		體操	三	三
數學	四		英語	(三)	(三)
博物			計	三三三(四)	二二三(四)
物理及化學	二	三			

第二章 學年學期教授時數及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月卅一日ニ至ル

學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第七條 教授時數ハ本科男生徒ニ就キテハ每週三十四時本科女生徒ニ就テハ每週三十一時乃至三十四時トス但シ夏季休業ノ前後ヲ通シテ教授日數二十日以内ハ每週十五時以内適宜減スルコト

ヲ得

第八條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 日曜日

三 夏季休業日 七月二十六日より九月五日マテ

四 冬季休業日 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ

五 學年末休業日 三月廿六日より四月四日マテ

第三章 學業成績及卒業

第九條 學業成績ノ調査ハ學科及操行ニ就テ之ヲ行フ但シ最終學年ニ在テハ教育實習ノ成績ヲ加

フ

第十條 學科成績ノ調査ハ平常考查及臨時考查ニ依リ之ヲ行フ

學科及教育實習ノ成績ハ十點法ニ依リテ之ヲ計算ス

第十一條 操行成績ノ調査ハ每學期末各教員ヨリ提出スル操行考查書ニ依リ之ヲ行ヒ學年末ニ至

リ判定ヲ下スモノトス

第十二條 卒業成績ハ各學年ノ學業成績ニ依リ之ヲ判定シ附録書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第四章 入學休業退學及懲戒

第十三條 入學ニ關スル事項ハ別ニ生徒募集細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 生徒疾病其ノ他止ムヲ得サル事項ニ依リ永ク欠課ヲ要スルモノト認メタルトキハ一ケ

年以内休學ヲ命ス

休學ヲ命シタル生徒ニシテ其ノ休學ノ期限終リタルトキハ原級ニ復セシム

第十五條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良

ニシテ教員タルニ不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命ス

第十六條 私費生ニシテ學校指定ノ期日マテニ學資金ヲ支辨セサルトキハ登校ヲ停止シ支辨ヲ怠

ルコト三ヶ月ニ及フトキハ退學ヲ命ス

第十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス但シ學校長ニ於テ止ヲ得サル事由アリト

認メタルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フ其ノ種類左ノ如シ

一、一ケ年以内ノ停學

二、放校

第十九條 退學若ハ放校ノ場合ニ還納及償還セシムヘキモノ左ノ如シ

一、第十五條ノ場合 公費生ニツキテハ學校ヨリ支給シタル現在品ヲ還納セシム

二、第十六條ノ場合 入學當初ヨリノ授業費ヲ償還セシム但シ償還ノ期限ハ三ヶ月以内トス

三、第十七條退學及第十八條放校ノ場合 私費生ニツキテハ入學當初ヨリノ授業費公費生ニ

ツキテハ入學當初ヨリノ授業費及其ノ在學中支給シタル學資ヲ償還セシム

但シ償還ノ期限ハ前項ニ同シ

第五章 生徒ノ管理、學資、授業費及貸與品

- 第二十條 生徒ハ凡テ寄宿舎ニ入ラシム但シ夏季休業及冬季休業中並特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニアラス
- 第二十一條 生徒ニハ凡テ一定ノ制服ヲ着用セシム但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニアラス
- 第二十二條 公費生ノ學費ヲ分テテ食費被服費及修學旅行費トス
- 私費生ニ在リテハ前項ノ學費ヲ自辨セシム
- 第二十三條 食費ハ現金ヲ以テ之ヲ支給シ生徒ヲシテ自炊セシム但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニアラス
- 左ノ場合ニハ食費ヲ支給セス
- 一、入學初年一學期間
- 二、入院及私事ニ依ル歸郷、外泊者
- 三、夏季休業及冬期休業中
- 第二十四條 被服ハ別表ニ依リ現品ヲ支給ス
- 第二十五條 修學旅行費ハ現金ヲ以テ支給ス
- 第二十六條 授業費ハ一ヶ月金貳圓ノ割合ヲ以テ計算ス但シ八日分ハ之レヲ除クモノトス
- 第二十七條 學校ヨリ貸與スヘキ物品ノ主ナルモノハ寢具机腰掛炊具點燈具及教科用具ノ一部トス
- 第二十八條 給與品ヲ紛失毀損シタル者ハ自己ノ負擔トス
- 貸與品其ノ他學校ノ物品ヲ紛失毀損シタルトキハ之ヲ賠償セシム但シ情狀ニ依リ之ヲ酌量減免ス

スルコトアルヘシ

學校ノ建築物ヲ毀損シタル場合又同シ

第六章 附屬小學校

第二十九條 本校ニ附屬小學校ヲ設ケ之ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 附則

第三十條 本學則ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十一條 本學則施行ノ際現ニ在學スル本科女生徒ノ修業年限ハ從前ノ規則ニ依ル

第三十二條 本學則施行ノ際現ニ在學セル生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ヲ斟酌スルモノトス

第一部男生徒被服給與表

品目	摘要	品名	質	保存期限	在學中給與數
冬上衣袴	入學初年二組 爾後毎年一組	紺小倉		一ケ年	五
冬シャツ袴下	全上	白綿子ル		一ケ年	五
夏上衣袴	全上	白小倉		一ケ年	五
夏シャツ袴下	全上	白天笠木綿		一ケ年	五

外	套	在學中一枚	紺羅紗	四ケ年	一
帽	子	全二個	黑羅紗	二ケ年	二
短	靴	每年二足	黑皮	六ケ月	八
脚	袴	入學初年二足 爾後每年一足	ヅツク	一ケ年	五

第一部女生徒被服給與表

品	目	摘	要	品	質	保存期限	在學中給與數
袴		在學中二着		カシメル		二ケ年	二
體操用靴		全上		黒皮		二ケ年	二

第二部男生徒被服給與表

品	目	摘	要	品	質	保存期限	在學中給與數
冬上衣袴		在學中一組		紺小倉		一ケ年	一
冬シャツ袴下		全二組		白綿子ル		一ケ年	二

夏上衣袴	全一組	白小倉	一ケ年	一
夏シャツ袴下	全二組	白天笠木綿	一ケ年	二
外	全一枚	紺羅紗	一ケ年	一
帽	全一個	黑羅紗	一ケ年	一
短	在學中二足	黒皮	六ケ月	二
脚	全一足	ヅツク	一ケ年	一

第二部女生徒被服給與表

品	目	摘	要	品	質	保存期限	在學中給與數
袴		在學中一着		カシメル		一ケ年	一
體操用靴		全一足		黒皮		一ケ年	一

第十一條ノ附錄
卒業證書式 (用紙鳥ノ子校名渡入)

卒業證書
校印
族名
氏名
生年月日
右當校本科第一(二)部ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス年月日
愛媛縣師範學校長
位勳氏名印
番號

曲尺約七寸五分

◎職員

○師範學校官制

明治二十四年十一月十六日勅令第二百十七號

第一條 師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助教
舍監
訓導
書記

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ(明治三十一年勅令第三十一號ヲ以テ改正)

第三條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬教員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ヲ視察ス(明治二十六年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十年文部省令第十九號ヲ以テ人員同三十一年文部省令第十七號ヲ以テ俸額改正公布)

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附 則

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○府縣立師範學校長任命及俸給令

明治二十四年八月十七日 勅令第百七十二號

第一條 府縣立師範學校長ハ奏任トシ其官等ハ高等官五等以下八等以上トス但シ特ニ功勞アリ五
 年以上高等官五等ニ在ル者ハ之ヲ高等官四等ニ陞敘スルコトヲ得(明治四十年勅令)
 第二條 府縣立師範學校長ノ年俸ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス但シ特ニ功勞アリ五箇年以上一級俸ヲ
 受クル者ハ年俸二千圓マテ増俸スルコトヲ得(明治三十一年勅令第百三十一號ヲ以テ但書追加)
 第三條 本令ニ規定スルモノ、外總テ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ニ依ル(明治二十五年
 號高等官官等俸給令ヲ以テ
 高等官任命及俸給令廢止)

附 則

第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

(別表) (明治三十一年勅令第百三十一號ヲ以テ改正)

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓

(備考)

明治四十年勅令第百四十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ同令公布ノ日ヨリ施行

○府縣立師範學校長特別任用令

明治二十六年十月三十日 勅令第百九十三號

府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ學位若クハ學士ノ稱號ヲ有シ一箇年
 以上教育ニ關スル公務ニ從事シタル者又ハ三箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ三十圓以上
 ノ月俸ヲ受クル判任官又ハ判任官待遇ノ者ニ限リ試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任
 用スルコトヲ得

○師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額

明治三十一年八月十三日 文部省令第十七號

明治二十五年文部省令第六號師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額ヲ改正スルコト左ノ如シ
 但明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額

第一條 師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額ハ左表ニ依リ支給スヘシ但奏任文官ト同一ノ待遇
 ヲ受クル教諭ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ハ該表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百五拾圓マテ増
 俸スルコトヲ得

第五編 職員 (府縣立師範學校長特別任用令)
 (師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額)

第二條 師範學校教諭助教諭及專科正教員タル訓導ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ左表ニ掲クル俸給等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得（明治三十二年文部省令第十五號ヲ以テ改正）

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
教諭	九十圓	八拾圓	七十五圓	七十圓	六十五圓	六十圓	五拾五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	參拾五圓	參拾圓		
助教諭			參拾五圓	參拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾四圓				
訓導			參拾五圓	參拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾四圓					
書記			拾七圓	拾五圓	拾四圓	拾三圓								

○師範學校職員著服一定方

明治二十一年九月十五日 文部省訓令第二號

北海道廳 府縣

師範學校職員ノ儀ハ殊ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保タシムルコト職務上必要ニ付自今該學校長教員幹事

舎監ハ職務上一定ノ服ヲ着用セシムヘシ

但本文改正一時ニ行届キ難キモノハ來明治二十二年六月迄猶豫スルコトヲ得

○師範學校長旅費減額報告方

明治三十一年八月二日 文部大臣訓令

北海道廳 府縣

内國旅費規則第十五條ニ依リ師範學校長ノ旅費額ヲ減少セントスルトキハ自今經何ヲ要セス處分ノ後報告スヘシ

○生徒及卒業生

○師範學校生徒定員

明治三十年十月六日 勅令第三百四十七號

第一條 師範學校ハ道府縣管内學齡兒童數三分ノ二ニ對シ一學級七十名ノ割合ヲ以テ算出スル全學級數ノ二十分ノ一以上ニ相當スル卒業生ヲ出スニ足ルヘキ生徒ヲ毎年募集スヘシ

第二條 男女生徒員數ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ

第三條 地方ノ情況ニ依リ女生徒ヲ置カサルトキハ其ノ事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

附 則

第四條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

設備ノ都合ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項期限ヨリ一箇年以内生徒定員ニ關スル從前ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

○體格薄弱ニ屬スル者其他疾病アル者入學セシムヘカラ

サルノ件 明治三十五年二月二十四日 文部省令第五號

高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者

二 精神機能ニ障害アル者

三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者

四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者

五 肺結核其ノ他結核ノ諸兆アル者

六 心臟辨膜疾ヲ患フル者

七 惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者

八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

附 則

本令ハ明治三十五年三月一日ヨリ施行ス

●文部省訓令第三號 (明治三十四年十二月四日)

北海道廳 府縣

師範學校本科生徒病類別患者表左記様式ニ從ヒ毎年四月三十日限文部大臣ニ報告スヘシ
本令ノ調査ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行スヘシ

明治(何)年度(何)師範學校本科第(何)學年(男又ハ女)生徒病類別患者表

病 類	疾病番號	舊患者	新患者	合計	轉			歸						
					治癒	死亡	退學	事故	後遺	校內治療人員日數	校外治療人員日數			
痘 瘡 假 痘	一													
水 痘	二													
麻 疹	三													
猩 紅 熱	四													
發 疹「チフス」	五													
「ペ ス ト」	六													
「チフテリア」	七													
腸「チフス」	八													
「コレラ」	九													
霍 亂	一〇													
「マラリヤ」	一一													

- 十一 在校生徒延人員ハ在校日數中日々ノ在校生徒及校外治療生徒ヲ積算シテ掲クルモノトス
 - 十二 平均一日在校生徒ハ在校日數ヲ以テ在校生徒延人員ヲ除シタル商ヲ掲クルモノトス
 - 十三 一學年間患者一人平均治療日數ハ其學年間ノ患者人員ヲ以テ其治療日數ヲ除シタル商ヲ掲クルモノトス(明治三十五年文部省訓令第四號ヲ以テ改正)
 - 十四 一學年間在校生徒毎千平均一日患者ハ其學年間在校生徒延人員ニ對シ患者延人員ヲ比例シ掲クルモノトス
 - 十五 一學年間無病生徒ハ其學年間全ク醫師ノ治療ヲ受ケサル者ノ數ヲ掲クルモノトス但學年ノ中途ニ於テ入學シタル生徒ニシテ無病ノ者モ亦之ヲ算入スヘシ
 - 十六 一學年間治療費ハ其學年間校費ヲ以テ支辨シタル決算額ヲ掲クルモノトス
 - 十七 平均一日患者、平均一日生徒、一學年間患者一人平均治療日數、同在校生徒毎千平均一日患者ハ單位以下二位ニ一學年間治療費ハ單位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 十八 備考ノ部ニハ學校ノ主任醫ヲシテ學校ニ存在スル最多ノ疾病ノ原因及豫防等ニ關スル意見等ヲ記述セシメ尙學校醫ノ意見アルモノハ之ヲ附記セシムヘシ
- 愛媛縣令第三十四號 (明治二十六年六月二十四日)
 明治二十五年七月文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第七條ニヨリ細則ヲ定ムルノ如シ
- 尋常師範學校卒業生服務規則

- 第一條 服務規則第一條二項ニヨリ許可ヲ請フモノハ左ノ各項ヲ具シ所屬郡市町村長ヲ經テ願ヒ出ツ可シ
 - 一 特別ノ事情
 - 一 就職セントスル道廳府縣名并ニ職名
 - 一 卒業後勤務ノ經歷
- 第二條 服務規則第三條ニヨリ届ケ出ツル期限ハ義務ヲ卒リタル日ヨリ十日以内トシ經歷書ニハ主トシテ卒業後ニ於ケル學習勤務及ヒ賞罰ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ
- 第三條 服務規則第四條第一項ニヨリ指揮ヲ請フモノハ正確ナル證據ヲ添へ所屬郡市町村長ヲ經テ願ヒ出ツヘシ
- 第四條 服務規則第四條二項又ハ第六條ニヨリ學資ノ償還ヲ命セラレタルモノハ當該官ヨリ發スル納入告知書ノ期限ニ從ヒ之レヲ納付ス可シ
- 第五條 服務規則第五條ニ依リ報告スル期限ハ毎年十二月二十五日限リトシ左項ニ依リ報告ス可シ
 - 一 勤務ノ經歷及年數
 - 一 教育會等ノ役員トナリタルトキハ其經歷
 - 一 講習ニ從事シ又ハ學習ヲナシタルトキハ其經歷
 - 一 賞罰
 - 一 前各項ノ外報告ヲ必要ト認ムル事件

第六條 郡市町村長ハ第一條又ハ第三條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ審明シ當否ノ意見ヲ附シテ進達スヘシ

○愛媛縣師範學校生徒募集細則

明治四十一年一月二十三日 愛媛縣令 第六號

明治三十九年縣令第六十二號師範學校生徒募集細則左ノ通改正ス

愛媛縣師範學校生徒募集細則

- 第一條 生徒ハ毎年一月ニ於テ之ヲ募集シ四月ニ於テ入學セシム
- 師範學校長ハ生徒募集ノ要項ヲ定メ之ヲ廣告スヘシ
- 第二條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫備科ヲ修了シタル者又ハ修業年限三ケ年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齡十五年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ
- 第三條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就テハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者女生徒ニ就テハ修業年限四ケ年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
- 第四條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本縣内ニ住所ヲ有シ身體健全ニシテ配偶者ヲ有セサル者タルコトヲ要ス
- 第五條 入學志願者ハ附錄書式甲號ノ入學願書同乙號ノ身體檢查書ニ戶籍謄本及丙號書式ノ人物考定及學業成績書(最終在校ノ分)ヲ添ヘ現住町村役場郡市役所ヲ經由シテ差出スヘシ郡市町村長ハ本

人ノ履歷ニツキ事實ノ相違及教員タルニ不都合ナル行爲ノ有無ヲ調査スヘシ

第六條 第一部生徒ノ入學檢定ハ第一次檢定第二次檢定ニ分テ第一次檢定ハ郡市役所ニ於テ之ヲ行ヒ第二次檢定ハ第一次檢定合格者ニ就キ師範學校ニ於テ之ヲ行フ

第一次檢定ハ修業年限三ケ年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ國語、算術、地理、歴史ニ付キ其ノ學力ヲ檢定ス但シ第二學年以上ニ入學セシムヘキ者ニ就テハ師範學校ニ於ケル前各學年各學科ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第二次檢定ハ身體檢查及口頭試問トス

第七條 第二部生徒ノ入學檢定ハ師範學校ニ於テ之ヲ行ヒ中學校又ハ四年期高等女學校卒業生ニ就キテハ身體檢查及口頭試問トシ其ノ他ノ者ニ就キテハ中學校又ハ四年期高等女學校卒業程度ニ於テ其ノ學力ヲ檢定シ之ニ合格シタル者ニ就キ身體檢查及口頭試問ヲ行フ

第八條 入學ヲ許可セラレタル者ハ二週間以内ニ附錄書式丁第一號同第二號ノ誓約書ヲ差出スヘシ

丁第一號誓約書ニ連署スル保護者ニシテ學校ヨリ一里以外ニ居住セルトキハ學校ヨリ一里以内ニ居住セル獨立ノ男子ヲ以テ代理人ト定メ連署ノ上差出スヘシ但シ學校長ニ於テ代理保護者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

丁第二號誓約書ニ連署スル保証人ハ本縣内ニ居住セル獨立ノ男子ニシテ直接國稅參圓以上ヲ納ムル者タルヘシ

市町村長ハ前項保証人ノ資格ノ有無ヲ調査スヘシ

第九條 保護者代理保護者、保証人、轉住又ハ改氏名ノ場合ハ直ニ届出ツヘシ
保証人其ノ資格ヲ失ヒ若ハ死亡シタルトキハ直ニ之ニ更ナルヘキ保証人ヲ設クヘシ
附録書式 甲 號

愛媛縣師範學校入學願書（用紙美濃形）

本籍身分職業戶主某何男何女兄弟姊妹

若ハ戶主

現住所

（私費希望ノ者ハ其ノ旨氏名ノ上ニ記入スヘシ）

假名ヲ附スヘシ

何

某

生年月日

一 第一次檢定希望地 何郡（市）役所

一 學業

何年何月何日何學校卒業若ハ第何學年修業

何年何月ヨリ何年何月マテ何所何某ニ就キ何修業

何年何月何日何教員免許狀ヲ受ク（別紙寫ノ通）

一 職業

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何小學校何教員勤務、退職當時月俸何圓何年何月ヨリ何年

何月マテ何業ニ従事

一 賞罰

何年何月何日何々ニツキ何所ヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ク

某儀本縣下ニ於テ小學校教員志願ニ付キ貴校第一部第二部何學年へ入學許可相成度別紙身體檢查書戶籍謄本並ニ人物考定及學業成績書相添此段相願候也

年 月 日

右

何

某 ㊦

住 所

右保護者（親權ヲ行フ者又ハ後見人）

何

某 ㊦

愛媛縣師範學校長殿

前記ノ趣相違無之教員タルニ適當ナル者ト認定候也

年 月 日

何市町村長

何

某 ㊦

乙 號

身 體 檢 査 書（用紙美濃形）

本籍身分職業戶主某何男何女兄弟姊妹

若ハ戶主

現住所

- 一、身長
 - 二、體重
 - 三、胸圍 當時盈虛ノ差
 - 四、脊柱
 - 五、體格
 - 六、視力
 - 七、眼疾
 - 八、聽力
 - 九、耳疾
 - 十、鼻疾
 - 十一、齒牙
 - 十二、疾病
 - 十三、言語
 - 十四、四肢運動障害ノ有無
 - 十五、痘
- 右之通相違無之候也

何 某 年月日生

年月日検査

住所 醫

何 某

體格検査記載方心得

- 一、検査ノ表記ニハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルヘシ
- 二、身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ニ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬘アル者ハ小桿ヲ鬘下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 三、體重ハ着衣ノ儘検査シタルトキハ其ノ着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四、胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ 充盈空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ
- 五、脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及屈彎ノ程度ヲ検査シ強、中、弱ノ三種ニ區別スヘシ
- 六、體格ハ甲、乙、丙ノ三等ニ區別スヘシ甲トハ發育營養共ニ佳良ニシテ無病健全ナル者乙トハ發育營養共ニ通常ニシテ無病ナル者丙トハ發育營養共ニ不十分ナルカ若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- 七、視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査シスチルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ「X」ト記スヘシ但遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

- 色盲ハ其ノ有無若ハ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
- 八、眼疾、結膜、角膜、虹彩、眼筋、眼底、淚器等ノ疾病ノ有無ヲ記載スヘシ
- 九、聽力 懷中時計ヲ以テ聽力ヲ測定シ^Xヲ式トス
- 十、耳疾、內耳、中耳、外耳等ノ疾病
- 十一、鼻疾鼻通ノ疾病
- 十二、齒牙ハ齲齒ノ有無齲齲等ノ疾病
- 十三、疾病呼吸器、循環器、消化器、神経系、皮膚等ノ疾病其他既往ノ疾病ニ因スル畸形及顯著ナル畸形等ヲ記載スヘシ
- 十四、言語、明朗、吃、嘔、聲等ヲ記載スヘシ
- 十五、四肢運動障害ノ有無、四肢ノ運動ヲ検査シ體操遊戲ヲ行フニ當リ障害アルヤ否ヲ記載スヘシ
- 十六、痘、天然痘或ハ種痘何回善感、不善感或ハ不感ノ旨ヲ記載スヘシ

丙 號

人物考定及學業成績書（用紙美濃形）

族 籍

何

某

生 年 月 日

人 物 考 定

- 一 品 行
- 一 性 質
- 一 志 操
- 一 舉 動
- 一 長 所、短 所

學 業 成 績 （成績ハ成ルヘク點數ヲ以テ記入ノ）

學年別	學科別						
	何	々	何	々	何	々	何
第一學年ヨリ							
最終學年ニ至							
ル各學年別							
備考							

本校在學中ノ人物考定及學業成績前書ノ通ニ候也

年月日

何縣學校長(何々中學校長)(何高等女學校長)

何 某 印

丁 第一號

三錢收
入印紙

誓 約 書 (用紙美濃形)

某儀今般御校へ入學許可相成候ニ付テハ在學中生徒タルノ本分ヲ保持シ規則命令ヲ遵奉シ聊違背致間敷候且本人身上ニ關スル一切ノ事件ハ保護者ニ於テ引受可申候仍テ連署ノ上誓約書差出候也

年月日

右

住 所

何 某 印

保護者(親權ヲ行フ者又ハ後見人)

何 某 印

住 所

代理保護者 何 某 印
(保護者學校ヨリ一里以内ニ
居住スル者ハ之ヲ要セス)

愛媛縣師範學校校長殿

丁 第二號

三錢收
入印紙

誓 約 書 (用紙美濃形)

某儀今般本縣師範學校へ入學許可相成候ニ付テハ全校卒業後ハ服務ノ義務ヲ盡シ聊違背致間敷候萬一師範學校規程第六十七條又ハ本縣師範學校學則第十九條ニ依リ學資及授業費ノ償還ヲ命セラレタルトキハ御指定ノ期限内ニ必ス完納可致候若自身ニ於テ完納シ能ハサル場合ハ保証人ニ於テ負擔可致候仍テ保証人連署誓約スルコト如件

本籍身分職業戸主某何男何女兄弟姊妹

若クハ戸主

年月日

何 某 印

住 所

右親權ヲ行フ者
若ハ後見人

何 某 印

本 籍

現住所

保証人 何 某 印

愛媛縣 知事 殿

前記保証人何某ハ當市町村内ニ居住セル獨立ノ男子ニシテ直接國稅參圓以上納付セル者ナリ
年月日 何市町村長 何 某 印

◎附屬小學校

○師範學校附屬小學校ノ授業料額規定方

明治三十年十一月十一日
文部省訓令第十一號

北海道廳 府縣

明治三十一年四月以降師範學校附屬小學校ノ授業料ハ明治三十年勅令第四百七號ニ依リ定メタル金額ニ準據シ之ヲ定ムヘシ

(參照)

明治三十年勅令第四百七號ハ市町村立小學校授業料ニ關スル件ナリ

○愛媛縣師範學校附屬小學校學則

明治四十一年二月十三日
愛媛縣令第十五號

愛媛縣師範學校附屬小學校學則左ノ通定ム

愛媛縣師範學校附屬小學校學則

第一章 教科及編制

- 第一條 本校ニ尋常科、高等科ヲ併置ス
- 第二條 尋常科ノ修業年限ハ六ケ年トシ高等科ノ修業年限ハ三ケ年トス
- 第三條 兒童ノ定員ヲ四百人トシ九學級ニ編成ス
- 第四條 學級ハ尋常科七學級高等科二學級トス
- 第五條 尋常科ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工

トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ高等科ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工トシ尙男兒ノ爲ニ英語ヲ加ヘ女兒ノ爲ニ裁縫ヲ加フ

第二章 學年、學期、教授時數及休業日

- 第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第七條 學年ヲ分テテ三學期トス
 - 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ
 - 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ
 - 第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ
- 第八條 每週教授時數ハ附錄第一號表ニ依ル但夏期休業ノ前後ヲ通シテ教授日數二十日以内ハ每週十二時間以内ヲ適宜減スルコトヲ得
- 第九條 休業日ヲ定ムルコト左ノ加シ
 - 一、祝日大祭日
 - 二、日曜日
 - 三、夏期休業日 七月二十六日ヨリ九月五日マテ
 - 四、冬期休業日 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ
 - 五、學年末休業日 三月二十六日ヨリ四月四日マテ
 - 六、地方祭日

第三章 入學及退學

第十條 兒童入學ノ期ハ學年ノ始メトシ其ノ期日及入學ヲ許スヘキ人員ハ豫メ之ヲ廣告ス但缺員アル時ハ臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 兒童ヲ入學セシメントスルトキハ附錄第二號書式ノ願書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

尋常科ニ入學ヲ許可セラレタルトキハ學校長ノ承認書ヲ添へ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第十二條 兒童ヲ退學セシメントスルトキハ事由ヲ詳記シ學校長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

尋常科ノ教科ヲ修了セサル者ニシテ退學ヲ許可セラレタルトキハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ツヘシ

第四章 授業料

第十三條 尋常科兒童ノ授業料ハ之ヲ徴收セス

高等科兒童ノ授業料ハ一ヶ月金參拾錢トシ毎月十日之ヲ徴收ス但一家ノ兒童二人以上同時ニ在學スルトキハ其ノ一人以外ノ兒童ニ對シテハ授業料額ヲ半減ス

第十四條 授業料ハ兒童ノ入學ヲ許可シタル後ハ出席ノ有無ニ拘ラス之ヲ徴收ス但八月分及學校ノ都合ニ依リ全ク休業シタル月ハ之ヲ徴收セス

第十五條 授業料ノ滞納ニケ月以上ニ及ビタルトキハ其ノ兒童ヲ退學セシム

第五章 附則

第十六條 本學則ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治四十一年度ニ於テハ男子高等科第三學年ハ之ヲ置カス

第一號附錄

各學年每週教授時數配當表

科目	尋常科		高等科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
修身	二	二	二	二
國語	九	一〇	一三	一三
算術	四	六	六	六
日本歴史				
地理			三	三
理科			二	二
圖畫	一	一	男二 女一	男二 女一
唱歌			二	二
體操	四	四	二	二
裁縫			三	三

手	工	一	一	一	一	二	二	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
英	語							男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計		二二	二四	女二七	男二八	女二九	男三〇	女三〇	男三〇	女三〇	男三〇	女三〇	男三〇	女三〇	男三〇	女三〇	男三〇

第二號附錄

入學願

〔保護者トハ入學兒童ニ對シ親權ヲ行フ者〕
〔又ハ親權ヲ行フ者ナキ時其後見人ヲイフ〕

明治 年 月 日 生	原籍	現住	入學 前 經 歷	保 護 者		
				氏名	住所	職業
				兒童 ノ 關係		

右者御校附屬小學校尋常高等科第學年ニ入學致サセ度候間御許可成シ下サレ度此段相願候也

明治 年 月 日

愛媛縣師範學校長殿

右 保 護 者

第六編 高等師範學校

總 則

高等師範學校規程

明治二十七年四月六日
文部省令第十一號

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ豫科本科研究科トス

本科ハ分テ國語漢文部、英語部、地理歴史部、數物化學部及博物部トス(明治三十六年文部省令第一號ヲ以テ改正)

第二條 豫科ノ科目ハ倫理、國語、漢文、英語、數學、論理、圖畫、音樂、體操トス但一部ノ生徒ニハ圖畫、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ課セサルコトヲ得(上)

第三條 本科國語漢文部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、國語、漢文、英語、歷史、哲學、言語學體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得(明治三十六年文部省令第一號ヲ以テ改正)

本科英語部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、英語、國語及漢文、歷史、哲學、體操トス但隨意科目トシテ獨語又ハ佛語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得(上)

本科地理歴史部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、地理、歷史、法制經濟、國語及漢文、英語、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得(上)

本科數物化學部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、數學、物理學、化學、天文氣象、英語、圖畫及手工、體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得(上)

本科博物學部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、植物學、動物學、生理學及衛生、鑛物學及地質學、農學、英語、圖畫、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

第三條ノ二 研究科ノ科目ハ本科各部ニ置ク所ノ科目トス(明治三十五年文部省令第十三號ヲ以テ改正)

第四條 高等師範學校ノ學科ハ師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 修業年限ハ豫科一箇年本科三箇年研究科一箇年乃至二箇年トス(明治三十五年文部省令第十三號ヲ以テ改正)

第六條 第三年級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシムヘシ(同上)

第七條 (同上)

第八條 生徒在學中疾病ニ因ルノ外自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ(同上)

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

豫科ノ生徒ニシテ學年試驗ニ落シタル者ハ前項ニ依ルヘシ(同上)

第十條 研究科ニ入學スヘキ者ハ本科及專修科ノ卒業生ニ就キ學校長ニ於テ撰擇シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス但私費ヲ以テ入學セント欲スル者ハ本文ノ者ニアラサルモ入學ヲ許可スルコトアルヘシ(明治三十年文部省令第二十七號同三十三年同第一號同三十六年同第二十號ヲ以テ改正)

第十一條 (明治三十三年文部省令第一號ヲ以テ削除)

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ教員ノ闕乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得(同上)

專修生ハ授業料ヲ徵收ス但學費ヲ支給スル學校ニ於テハ此限ニアラス(明治三十年文部省令第九號ヲ以テ但普通追加)

第十三條 師範學校中學校高等女學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ本科中ノ一科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得(明治三十三年文部省令第一號ヲ以テ改正)

第十四條 撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上三箇年以下トス(明治三十四年文部省令第七號ヲ以テ改正)

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學科ニ關スル規定ハ之ヲ廢ス

(備考) 明治三十三年文部省令第一號ヲ以テ改正ノ事項ハ同年四月一日ヨリ施行但實際第三學年以上ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十六年文部省令第一號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

右省令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ從前ノ規定ヲ斟酌シ特別ノ學科課程ヲ定ムルコトヲ得

○女子高等師範學校規程

明治三十年十月十二日
文部省令第二十四號

明治二十七年文部省令第二十五號女子高等師範學校規程左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

女子高等師範學校規程

第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、技藝科トス(明治三十二年文部省令第六號ヲ以テ改正)

第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歴史、地理、習字、音樂、體操トス(明治四十一年三月文部省令第五號ヲ以テ改正)

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、數學、物理、化學、博物、音樂、體操トス(同上)

第四條 技藝科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、物理及化學、家事、裁縫、手藝、圖書及圖案、音樂、體操トス(同上)

第四條ノ二 前三條ノ科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得(同上)

第五條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第六條 文科、理科、技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス(明治三十六年文部省令第三十二號ヲ以テ改正)

第七條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシム

第八條 生徒在學中自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若クハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

第十條 女子高等師範學校ノ卒業生又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ第二條乃至第四條ニ規

定シタル科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク(明治三十六年文部省令第三十二號ヲ以テ改正)

第十一條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

第十二條 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科理科又ハ技藝科中ノ一科目若クハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得(明治三十二年文部省令第六號ヲ以テ改正)

撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス倫理、教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス(明治三十一年文部省令第一號ヲ以テ改正)

撰科生ノ在學期間ハ四箇年トス但シ特別ノ事情アル者ニ就テハ學校長ニ於テ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

第十三條 二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル本科生ニハ學業ノ成績ニ依リ所設ノ科目中其數ヲ限リ修メシムルコトヲ得(同上)

明治三十六年文部省令第三十二號ヲ以テ改正ノ條項ハ同三十七年四月一日ヨリ施行

右施行ノ際現ニ女子高等師範學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ科目ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ新舊規定ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

◎生徒及卒業生

○高等師範學校生徒募集規則

明治三十年七月二十一日
文部省令第十號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ヲ改定スルコト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

第一條 高等師範學校豫科生及官費專修生ハ師範學校官立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十
三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル
者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選拔スルモノトス（明治三十三年
文部省令第二
號ヲ以
テ改正）

高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定シタルモノノ外薦舉
ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得（明治三十五年文部省令
第十七號ヲ以テ追加）

第一項ニ掲ケタル師範學校及中學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘ
キ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ得（同上）

第二條 高等師範學校豫科生及官費專修生ハ毎年一回之ヲ募集シ其ノ期日及員數ハ其ノ都度高等
師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス（同上）

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノノ外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該
學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 （同上）
（削除）

第五條 私費研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣
ノ許可ヲ受クヘシ（同上）
（改正）

附 則

第六條 明治二十七年文部省令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（參照） 明治二十七年文部省令第二號ハ高等師範學校生徒募集方ノ件ナリ

○女子高等師範學校生徒募集規則

明治三十年十月二十二日
文部省令第二十二號

第一條 女子高等師範學校本科生及官費專修生ハ師範學校女子部、修業年限四箇年ノ高等女學校
卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ
女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選拔スルモノトス但本科生ハ年齡十七年以上二十二年
未滿ニシテ夫ヲ有セサル者ニ限ル（明治三十二年文部省令
第十六號ヲ以テ改正）

第二條 女子高等師範學校本科生ハ毎年一回官費專修生ハ臨時之ヲ募集ス其ノ期日及員數ハ其ノ
都度女子高等師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノノ外女子高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡
當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 （明治三十三年文部省令
第六號ヲ以テ削除）

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ女子高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣

ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

第六條 明治二十六年文部省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（參照）

明治二十六年文部省令第十一號ハ高等師範學校女子高等師範學校生徒補缺ニ關スル規定ナリ

○高等師範學校卒業生服務規則

明治三十年七月二十一日
文部省令第十一號

明治十九年文部省令第十九號高等師範學校卒業生服務規則ヲ改定スルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

- 第一條 高等師範學校本科卒業生ニシテ所定學資ノ全部支給ヲ受ケタル者ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年一部支給ヲ受ケタル者ハ五箇年自費生ハ三箇年トシ其間教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有スルモノトス但全部支給ヲ受ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間一部支給ヲ受ケタル者ハ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ休職スル義務アルモノトス（明治三十六年文部省令第三十五號ヲ以テ改正）
- 第二條 高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス（上）

第三條 （明治三十一年文部省令第十八號ヲ以テ削除）

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得

第五條 （同上）

第六條 第一條第二條ノ卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム

- 一 第一條第二條ノ義務ヲ盡サ、ル者但第四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學資ノ全部若クハ幾部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
- 二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

第七條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ分科大學高等師範學校研究科專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス

附 則

第八條 明治十九年文部省令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（參照）

明治十九年文部省令第六號ハ師範學校ヲ卒業シ教職ニ從事スル者服務ノ狀況報告方ノ件ナリ
明治三十六年文部省令第三十五號ヲ以テ改正ノ條項ハ同三十七年四月一日ヨリ施行